

令和 5 年度
幼保小連携活動報告

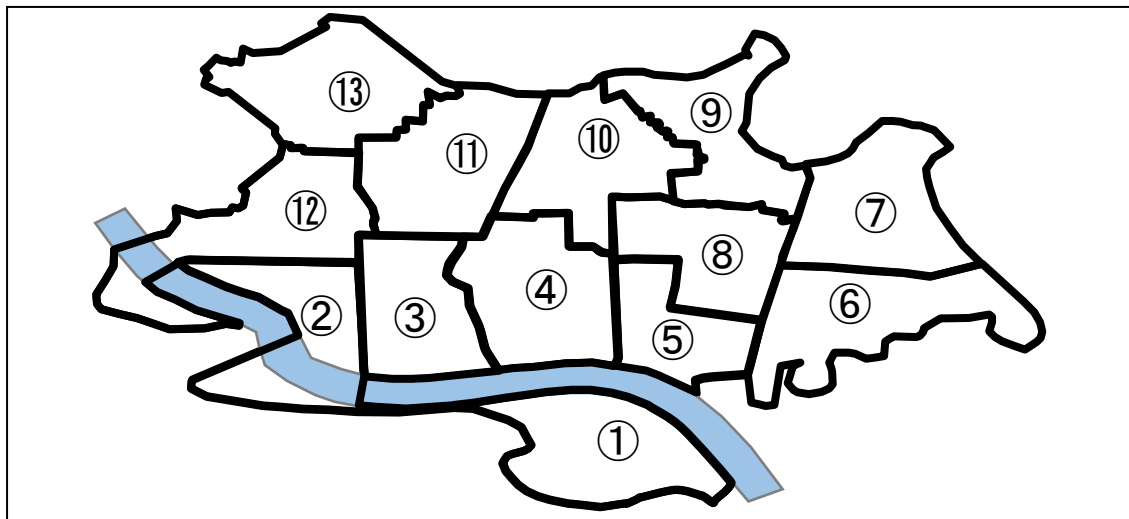
令和 6 年 9 月

足立区教育委員会
子ども施設指導・支援課

目 次

I	幼保小連携活動の目標	3
II	令和6年度ブロック別小学1年生アンケート結果（令和5年度実績）	4
III	各ブロック幼保小連携活動報告	
1	第1ブロック（千住地域）	6
2	第2ブロック（扇・江北・宮城地域）	10
3	第3ブロック（西新井・西新井本町・本木東地域 等）	13
4	第4ブロック（梅田・梅島・関原地域 等）	16
5	第5ブロック（足立・弘道・中央本町地域 等）	19
6	第6ブロック（綾瀬・東和・中川地域）	22
7	第7ブロック（大谷田・六木・谷中地域）	25
8	第8ブロック（青井・一ツ家・平野地域 等）	29
9	第9ブロック（花畑・南花畑地域）	33
10	第10ブロック（竹の塚・西保木間・保木間地域 等）	37
11	第11ブロック（伊興・栗原・東伊興地域 等）	41
12	第12ブロック（皿沼・鹿浜・新田地域 等）	44
13	第13ブロック（入谷・舎人・古千谷本町地域）	47
IV	接続期教育研修 実績内容	51

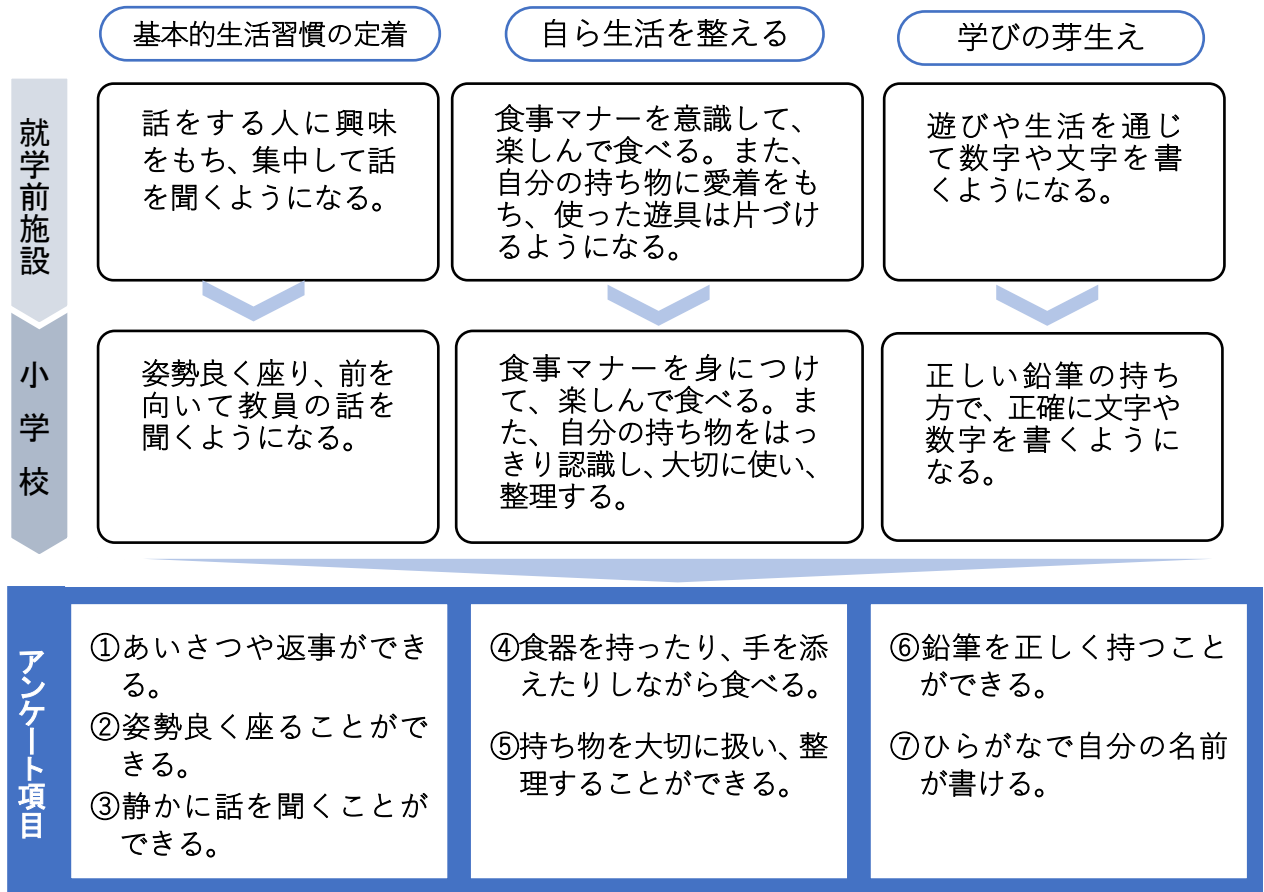
ブロック配置図



I 幼保小連携活動の目標

1 幼保小連携における区の方

幼児教育から小学校教育への滑らかな移行のため、3つのテーマに準じた教育・保育を展開していくとともに、小学校段階での定着度を調査し、幼保小連携活動につなげていく。



2 重点課題と取組

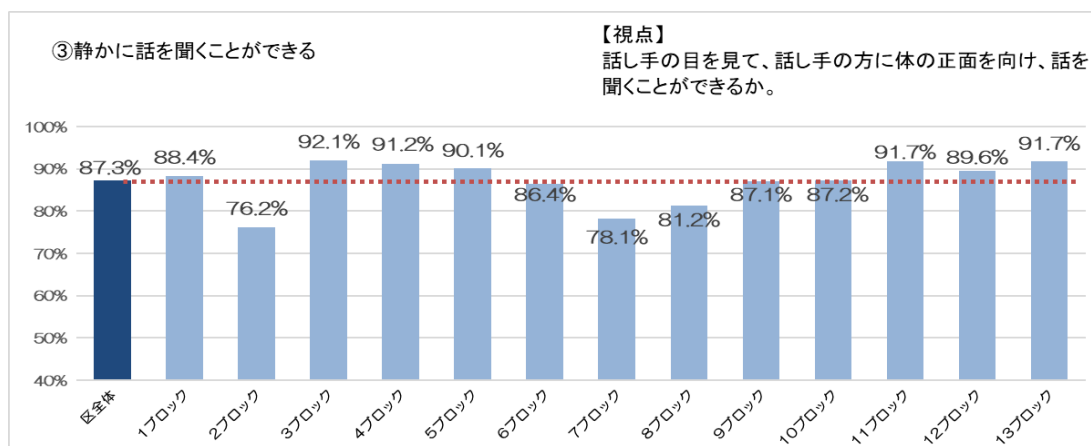
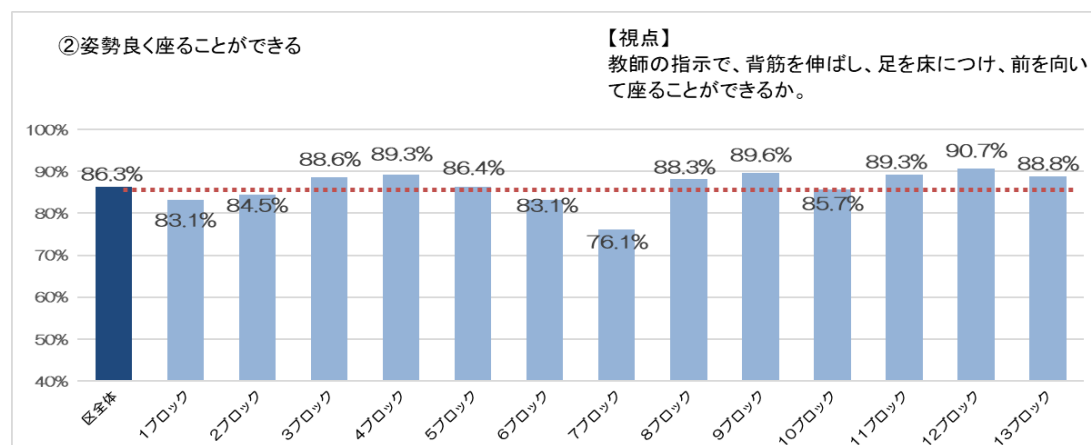
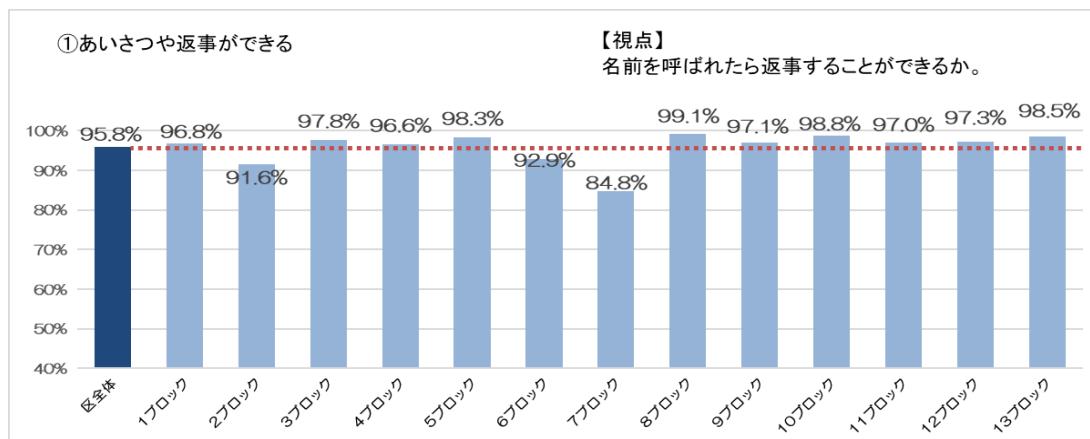
- (1) 令和5年度の基本的生活習慣が身についている小学校1年生の割合は、89.8%（過去3年間の平均値：87.8%）と高い水準であった。令和6年度も基本的生活習慣の身についている割合が高い水準を維持できるよう、幼保小連携活動及び就学前施設および小学校施設の取組を継続する。
- (2) 数値が低いアンケート項目（「食器を持ったり、手を添えたりする」、「鉛筆を正しく持つ」）について、まずは食器を持つことや箸を使うことにより、手指の発達を促し、小学校学習指導要領に沿った筆記具を正しく持つことへつなげる必要がある。そのため、「食器を持ったり、手を添えたりしながら食べる」ことを重点課題として設定し、就学前施設では食器に手を添えて食べられるよう保育者が援助を行う。

令和6年度 重点課題

「食器を持ったり、手を添えたりしながら食べる」 目標値：90%（令和5年度：79.7%）

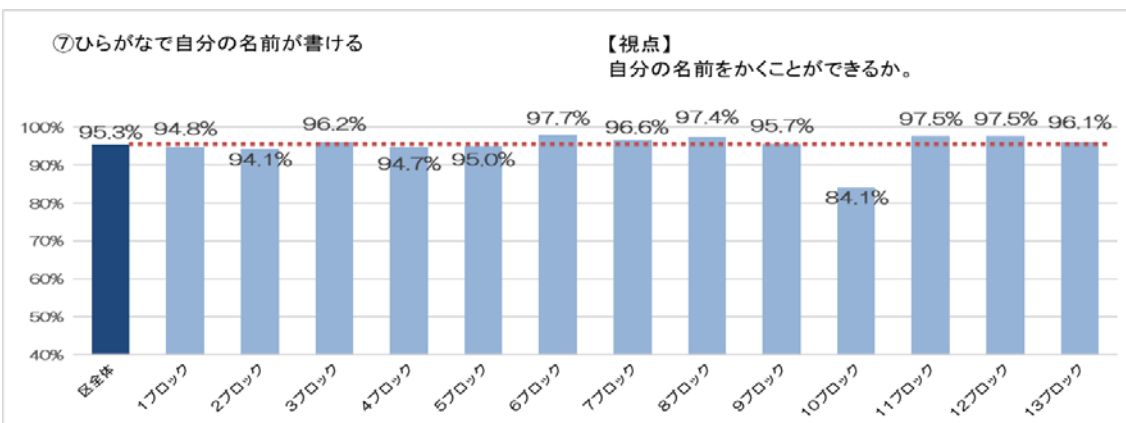
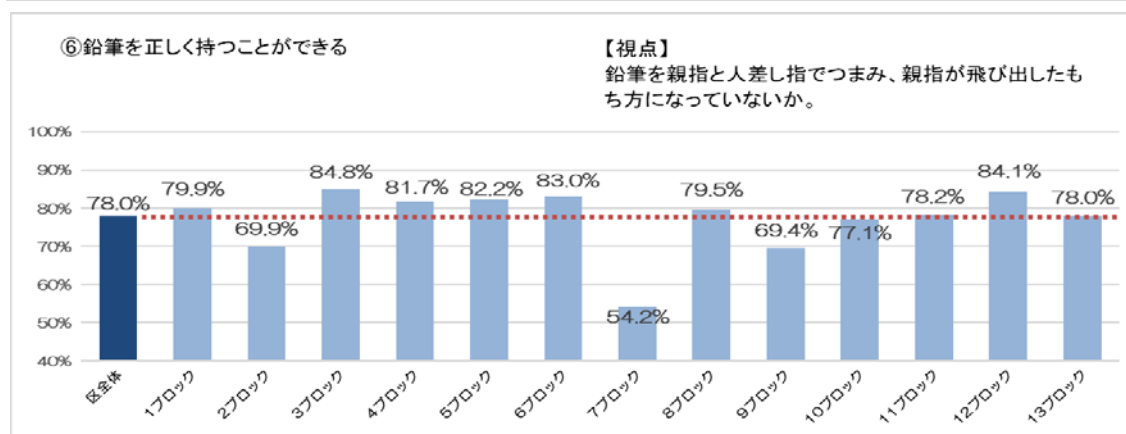
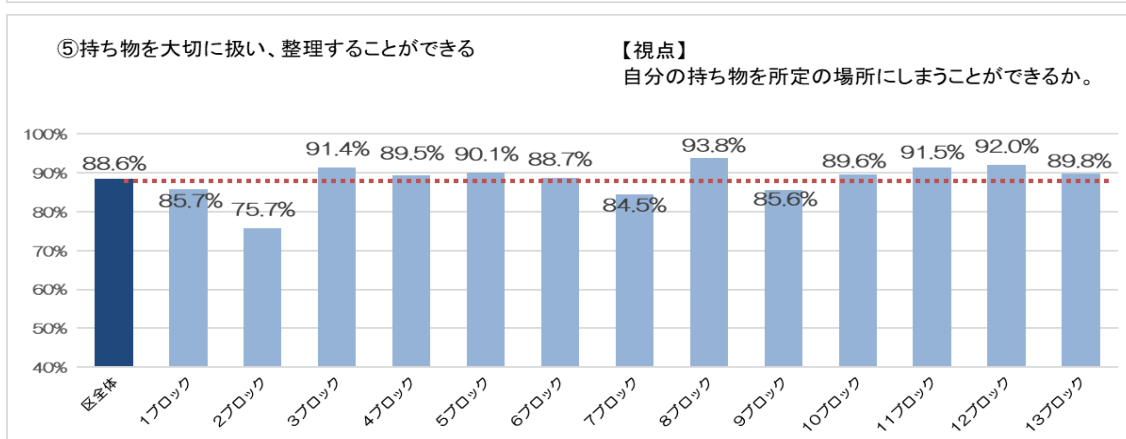
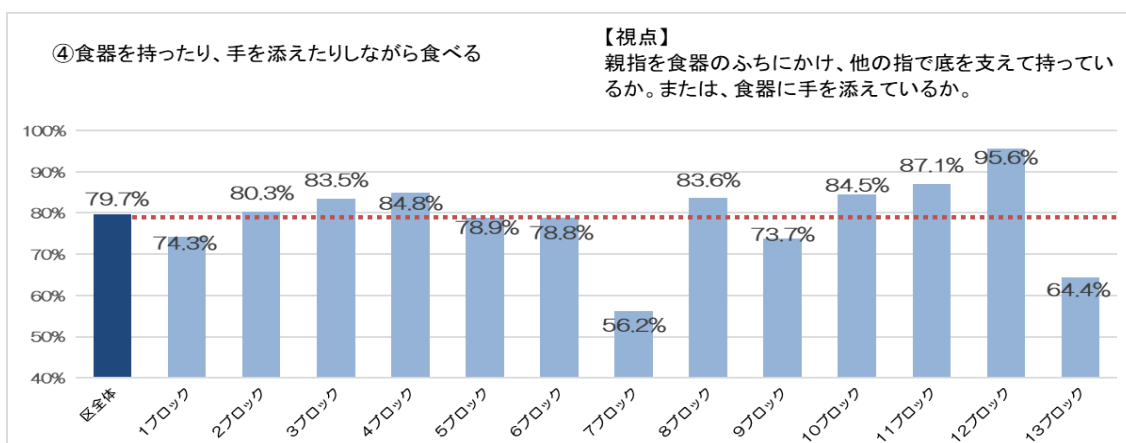
Ⅱ 令和6年度ブロック別小学1年生アンケート結果（令和5年度実績）

小学校第1学年児童の現状を把握し、関係者間で共有することにより、連携活動や子どもたちへの指導・支援に活かすことを目的に実施した。



※ アンケート項目①、②、③は「基本的生活習慣」と位置づけており、区全体の3項目の平均値は89.8%となっている。

令和6年度ブロック別小学1年生アンケート結果



Ⅲ 各ブロック幼保小連携活動報告

1 第1ブロック

(1) 第1ブロック連携校・園

小学校	幼稚園	こども園・保育園	認証保育所
千寿	足立 中条	緑町 ういず千住大橋駅前 クレアナーサリー千住大橋 アイグラン保育園千住大橋 まなびの森保育園千住大橋	
千寿本町		ステラ千住ふたば	Jキッズルミネ 北千住
千寿双葉	千住寿	元宿 北千住もみじの森	
千寿常東	聖和	日ノ出町 北千住どろんこ キッズガーデン足立柳原 北千住太陽	
千寿桜		千住 北千住 たんぼぼ保育所北千住園 帝京科学大学千住桜木	
千寿第八		千住あずま せきや ういず千住曙町 アスク千住 まなびの森保育園関屋	ぼけっとランド 千住曙町

(2) 第1ブロック 令和5年度 連携活動の主な取組事例

ア 千寿小学校と緑町保育園、足立幼稚園、アイグラン保育園千住大橋、クレアナーサリー千住保育園、まなびの森保育園千住大橋、ういず千住大橋駅前保育園の取組

(ア) あそびランドであそぼう【参加人数：210名】

2月に1年生が計画した『あそびランドであそぼう』に参加した。体育館に案内されると初めは緊張していたが、「はじめの会」で司役に卒園児の姿を見つけると、表情が和らぐ。だるま落とし・お手玉・けん玉・コマ・おはじき・羽根つき・あやとりコーナーの説明を聞きながら、「今日は何をするのだろうか?」「いろいろな遊びや玩具があつて楽しそう」という期待の声が聞かれた。

『はじめの会』

『あやとりコーナー』



『けん玉コーナー』



『だるま落としコーナー』

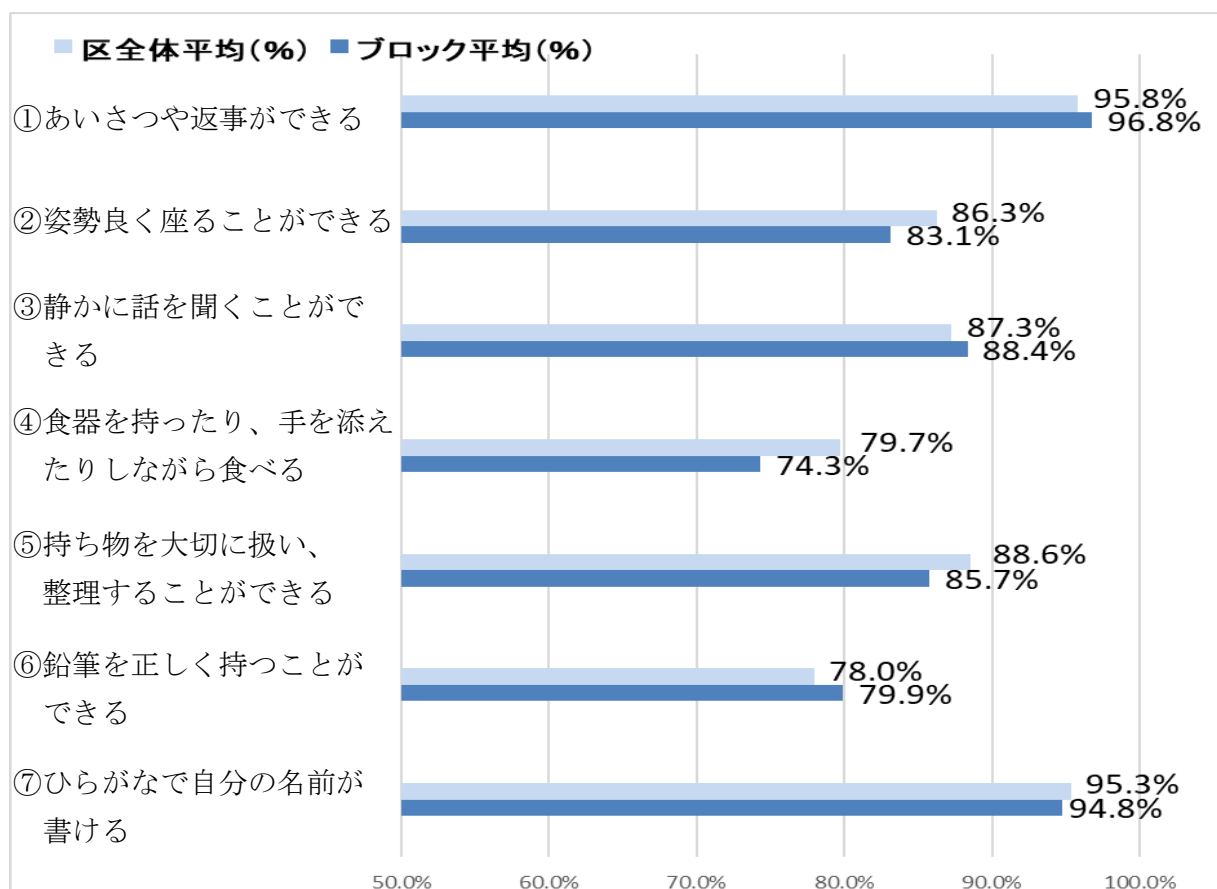


各コーナーへは1年生が誘導し、遊び方や手本を見せてくれた。1年生は園児が困っている姿に気づくと、「一緒にやってみよう」と優しく声をかけたり、「投げたら引く」「膝を曲げる」などコツを教えたり、遊びを見守りながら昔遊びの楽しさを園児に伝えていた。また、他園との交流を通して、自分と同じ学校に通う子が分かったことで安心した様子が見られ、小学生への憧れの気持ちや就学への期待がさらに高まった。

第1ブロック

(3) 令和6年度1年生アンケート結果（令和5年度実績）

第1ブロック集計結果



(4) 1年生アンケートの結果を受けた課題および取組

子どもの姿から見てきた課題	課題に関する今後の取組方針
ア アンケート②に関する課題 (ア) 姿勢よく話を聞いたり、静かに話を聞いたりすることが難しい児童もいるため、継続的な指導が必要である。 (イ) コロナの影響か、体幹や体力がなくなすぐにだらけてしまう。	ア アンケート②に関する取組方針 「グー・ペタ・ピン」や「忍者のように歩く」など、児童が理解しやすく、興味・関心を引き付けられるような声掛けを工夫する。
イ アンケート④に関する課題 (ア) 手先を器用に使うことが難しい児童が多い。 (イ) 手を添えて食べなかったり、片手が太ももに置いた状態で食べていたりする様子が見られるため、姿勢が悪くなることが考えられる。	イ アンケート④に関する取組方針 (ア) 多様な学びの中で、手先を意識するように指導し、家庭と連携しながらみていく。 (イ) 個々の発達段階や状況に応じて、できる子からお皿を持って食べられるように指導をしていく。

(次ページに続く)

子どもの姿から見えてきた課題	課題に関する今後の取組方針
(ウ) 皿を持って食べることができないのは、成長過程に要因があるのではなく、経験値の問題である。 (エ) 食事のマナーを家庭で教わっていない様子がある。 (オ) 日常の受け答えと食事のマナーの差が激しい。 ウ アンケート⑤に関する課題 自分の物を管理していくことが難しい児童が多い。 エ アンケート⑥に関する課題 自分は鉛筆を正しく持つことができていると思い込んでいる児童がいること。 オ アンケート②④⑥に共通する課題 手先の不器用さが目立つ。体幹が弱いことも理由の一つではないか。	ウ アンケート⑤に関する取組方針 どこに何を置いたらよいのか、掲示物で示したり、忘れ物チェック表等を使ったりし、自己管理をする習慣を身に付けていく。 エ アンケート⑥に関する取組方針 ひらがな練習の際に、鉛筆の補助具を用いて、正しい持ち方が習得できるようにする。 オ アンケート②④⑥に関する取組方針 入学前に身につけたい力として、幼保小でも共有したい（保護者にも伝える）。 (ア) 手先を使った活動や、家庭での生活体験を増やしていくことが必要（②④⑥）。 (イ) 学校だけの問題ではない。親にもわかってもらえるためにも家庭で取り組める講座のような機会を検討する（②④）。 ※ 文末の（）内は関連するアンケート項目を記載 カ その他、取組方針 (ア) 挨拶に関して、この結果を持続していけるよう教員から手本を見せ、挨拶が自然にできる環境をつくっていく。 (イ) 入学してからでも早いうちに取り組めるように、入学説明会で知らせる。

2 第2ブロック

(1) 第2ブロック連携校・園

小学校	幼稚園	こども園・保育園	認証保育所
江北	足立サレジオ 江北さくら	上沼田 江北 江北すきっぷ にじいろ保育園江北	
扇		AIAI NURSERY 高野 大空と大地のな一さりい 扇大橋園 さつき	
宮城	東京白百合	宮城 三星 足立しらゆり	

(2) 第2ブロック 令和5年度 連携活動の主な取組事例

ア 宮城小学校と三星保育園、宮城保育園の取組

(ア) 1年生との交流（学校体験）、5年生との交流（体験給食）

【参加人数：110名】

体育館に1年生と園児が合流し、グループに分かれて自己紹介をした。その後、教室に移動し、園児は席に座り教科書を見せてもらったり、自分の名前を書いたりした。1年生は、座り方（グー・ペタ・ピン）や鉛筆の持ち方を園児の隣で優しく教えたり、褒めたりしていた。給食は5年生が1対1で配膳や牛乳パックの開け方、飲み方、片付け方を丁寧に教え、トレイで給食を受け取る時には「どのくらい食べられる？たくさん？少し？」と、量を聞いていた。帰園すると、「すごく楽しかった」「学校の給食は全部おいしかった」という声が聞かれ、小学校への期待がより膨らんでいた。



イ 就学前施設（東京白百合幼稚園、三星保育園、宮城保育園）の取組

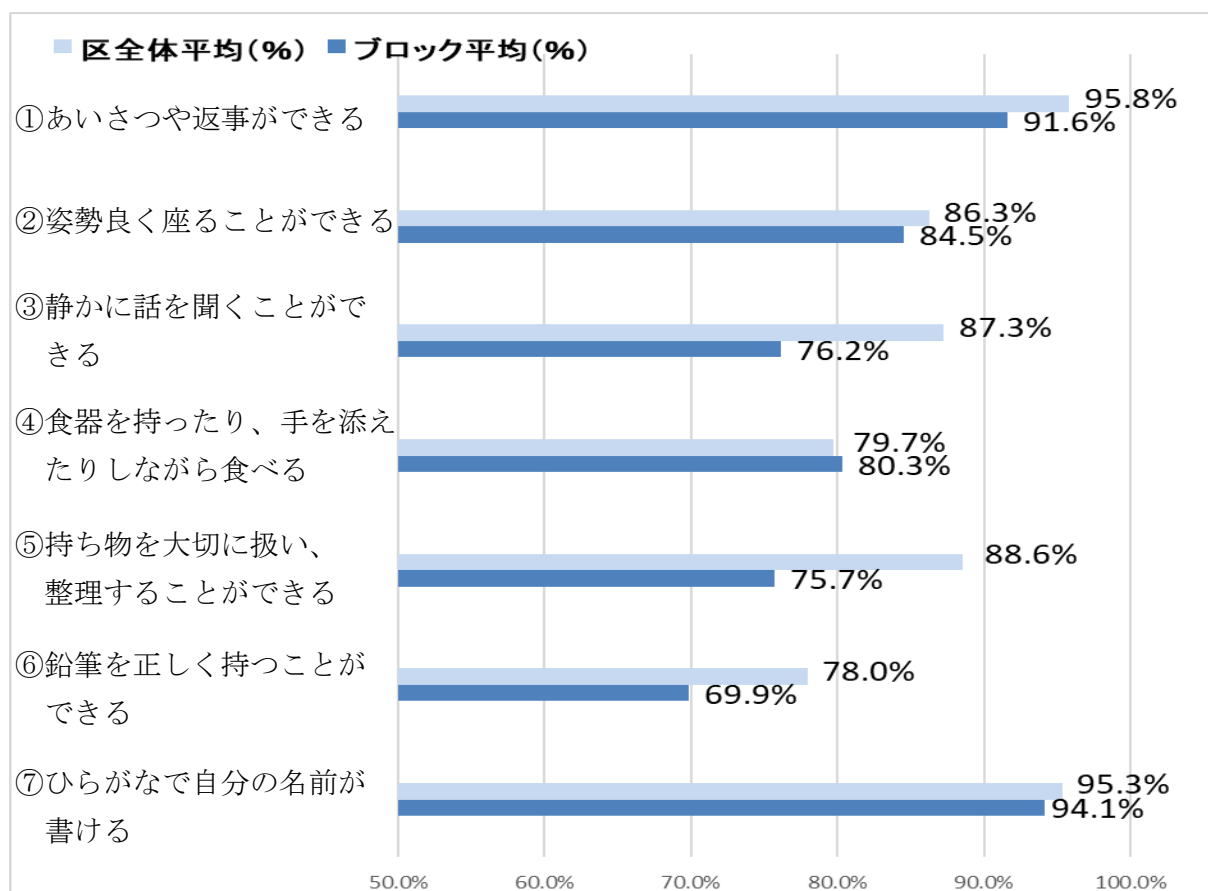
(ア) 遊び交流【参加人数：43名】

7月は、一緒に体操やゲーム遊びで体を動かし、小学校に入学する仲間とのふれ合いを楽しんだ。11月は、公園で2人ずつのペアになり、落ち葉集めなど自然に触れる活動を行った。他園の友だちの顔や名前を覚え、会話も増えていた。2月は、4～5人のグループになり、グループ名を考え、オリエンテーリングを実施した。相談しながらクリアしていくことで、緊張もほぐれ、笑顔での関わりが見られた。最後には、お互いに手を振りながら「またね」「今度は学校で会おうね」と声を掛け合い、就学に期待を抱き、楽しみにする姿が見られた。



(3) 令和6年度1年生アンケート結果（令和5年度実績）

第2ブロック集計結果



(4) 1年生アンケートの結果を受けた課題および取組

子どもの姿から見てきた課題	課題に関する今後の取組方針
ア 課題① 静かに話を聞くこと	ア 課題①に関する取組方針 (ア) 学校での授業の様子を見たり体験したりして静かに聞くことの大切さを伝える。 (イ) 公開保育で話を聞く場を設定するなどして2ブロックの大きなテーマとして話の聞き方について取り組む。
イ 課題② 鉛筆の正しい持ち方および 課題③ 姿勢良く座ること	イ 課題②および課題③に関する取組方針 (ア) 鉛筆の持ち方は、タブレット使用の影響もあるが園でも継続して鉛筆で書く経験をさせる。指だけでなく腕、肩等から動かす経験を積ませる。 (イ) 鉛筆の持ち方は、運動遊びで育てていくと同時に姿勢につなげていく。

3 第3ブロック

(1) 第3ブロック連携校・園

小学校	幼稚園	こども園・保育園	認証保育所
西新井	西新井	興野 西新井教会 いづみ	
西新井第一		西新井聖華 愛恵保育園にしあらい	チェリッシュ 西新井
興本 (興本扇学園)	興南	興本 キッズガーデン足立興野 アスク扇	
本木	足立愛育 第一若草	本木 本木東	
寺地	足立双葉	キッズガーデン足立扇 扇ころろ	

(2) 第3ブロック 令和5年度 連携活動の主な取組事例

ア 寺地小学校とキッズガーデン足立扇、扇こころ保育園の取組

(ア) 学校体験【参加人数：78名】

1月に2園合同で寺地小学校の1年生と交流をした。

1年生は、昇降口で園児を出迎え、ペアになって手をつないで自分の席まで案内した。園児は、1年生の国語の授業の様子（漢字の書き方や音読）を見た。その後、自分の名前を書いたり、一緒に音読の授業を体験したりした。緊張している様子もあったが、1年生と一緒に授業を体験でき、就学への期待が膨らんだ。



折り紙や塗り絵を一緒にしたり、絵本を読んであげたり、タブレットで調べたことを教えてあげたりし、自由に交流をした。1年生は、園児たちに楽しんでもらいたくて、友だち同士で、1年生役・園児役になり、どんな風にしたら楽しめるか、いろいろ考え、当日を迎えた。



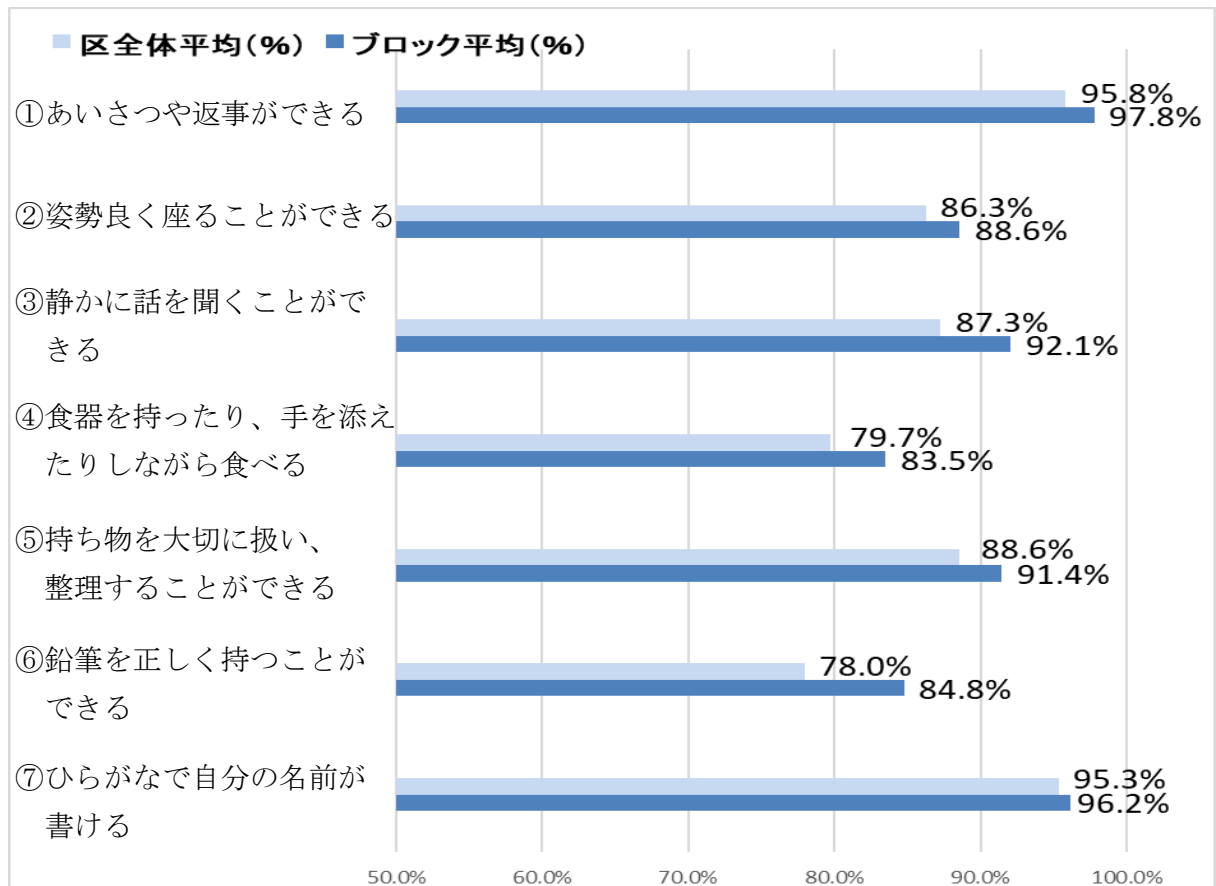
(イ) 校庭探検、体験給食【参加人数：78名】

校庭では、「冬っぽいものをみつけよう」と校舎の周りを探検したり、校庭を思いっきり走ったりした。体験給食では、「保育園と牛乳が違う」「給食おいしい」などの声が聞かれた。



(3) 令和6年度1年生アンケート結果（令和5年度実績）

第3ブロック集計結果



(4) 1年生アンケートの結果を受けた課題および取組

子どもの姿から見えてきた課題	課題に関する今後の取組方針
ア 全ての項目で区の平均値を上回るとともに、80%以上の達成率である。この結果は、就学前施設により、大人が見本になるよう保護者への啓発を促してきたおかげと考える。 イ この結果を受けて、令和6年度のブロック共通課題を「読書・読み聞かせ活動」とする。	ア 各校・園の独自活動、連携活動、異学年交流、親子による活動等、あらゆる絵本の活用を検討する。 イ 特に、親子による活動を通して愛着を深めることで、心の安定に努めていく。 ウ 全校朝会の校長講話等の機会に、積極的に絵本を取り上げ、読書の楽しさを伝える。 エ 教員・保育者を対象に読み聞かせ研修を8月に実施し、学んだことを基に各施設で実践に活かしていく。

第4ブロック

4 第4ブロック

(1) 第4ブロック連携校・園

小学校	幼稚園	こども園・保育園	認証保育所
関原	橘 専念寺	足立ひまわり たんぽぽ保育所西新井南園	
梅島	梅島	うめだ「子供の家」 バンビ保育園梅島園 エーワン梅島 ミアヘルサ保育園ひびき 西新井	ちぐさ保育園
梅島第一	こだま	島根 にじいろ保育園梅島	
梅島第二	八千代	梅田 親隣館	
島根		栗原つくし 島根いちい キッズガーデン足立島根	
亀田		中部ひまわり ミアヘルサ保育園ひびき 梅島	
栗原	満願寺	西新井きらきら ちゃいれつく西新井駅前	

（2）第4ブロック 令和5年度 連携活動の主な取組事例

ア 関原小学校と足立ひまわり保育園の取組

（ア）体験給食【参加人数：91名】

小グループに分かれ1年生と自己紹介や手あそびをした後、ランチルームで体験給食をした。ランチルームで子どもたちは、「どんな給食かな」とわくわくしていた。

給食が始まると、1年生が園児に、「給食の量ははどうする？食べられる？減らす？」と丁寧に尋ね、園児はそれに答えていた。こぼさないように運ぶことや牛乳パックの開け方などを経験し、小学校の給食を体験することで子どもたちも安心し、就学に向けて期待感をもつ様子うかがえた。



イ 親隣館保育園と梅田保育園の取組

（ア）遊び交流（凧揚げ）【参加人数：20名】

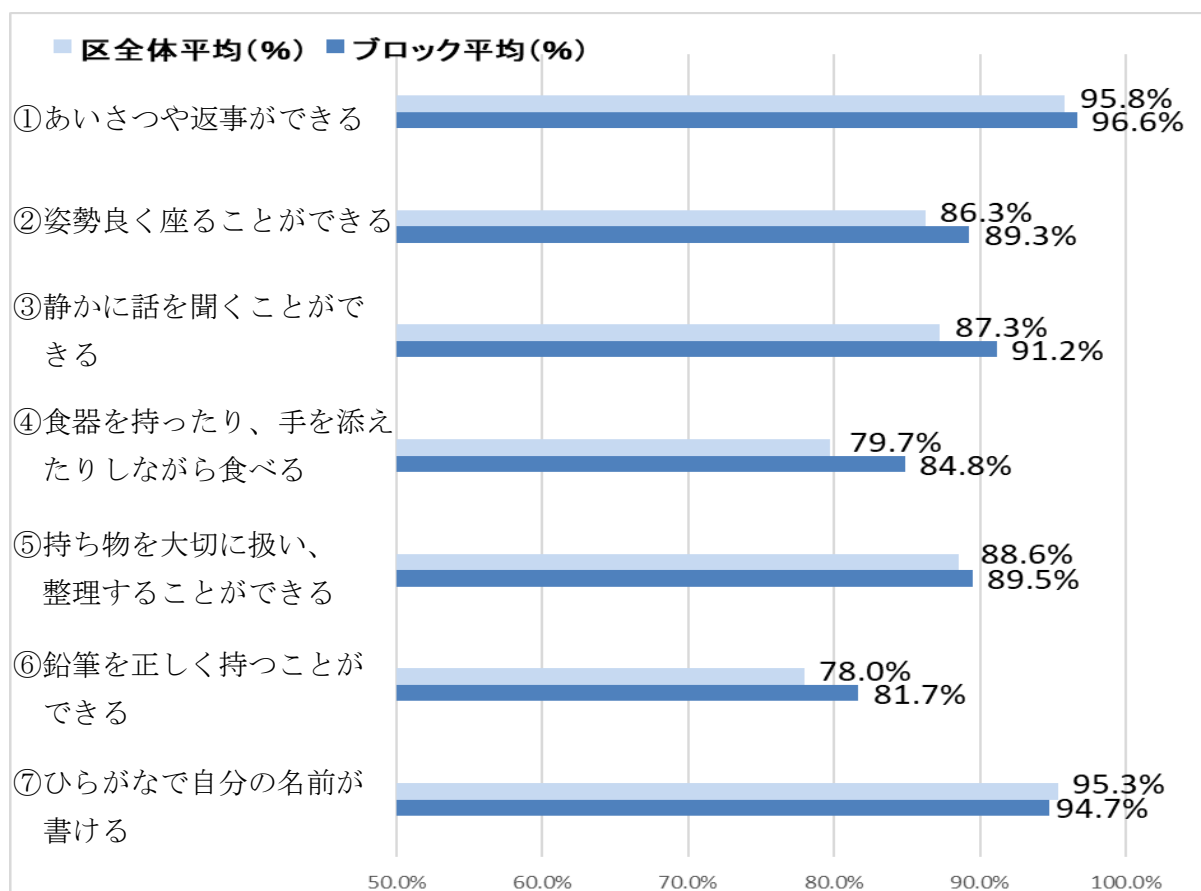
自己紹介で好きな遊びの紹介をした。始めは互いに緊張していたが、好きな遊びが同じと分かると嬉しそうであった。凧揚げでは、空高く揚がる凧を見て歓声を上げたり、凧が絡まると両園の子どもが協力して糸を外したり、自然な形で交流する姿が見られた。近隣保育園同士の交流は、遊びを通して顔見知りができるなど良い体験となり、「また遊ぼうね」「今度は学校で会おうね」と、親しみや就学への期待が高まった。



第4ブロック

(3) 令和6年度1年生アンケート結果（令和5年度実績）

第4ブロック集計結果



(4) 1年生アンケートの結果を受けた課題および取組

子どもの姿から見てきた課題	課題に関する今後の取組方針
ア 食器の大きさ、重さが関係して食器を持つことが難しいのではないかな。まず食器を持つ必要があるのかなど疑問もあるが、見届ける者のイメージをそろえないと%にばらつきが出る。 イ 鉛筆を持つことを就学前で行い、癖がついてしまうとなかなか直せない。就学前は正しく持つ意識を育て、それを見取することは大切。 ウ ①②③の項目について、昨年度より、平均5.9%上昇している。連携の成果が現れていると考える。	ア クレヨンでのお絵かきや運動遊びなどを楽しみながら行い、肩、ひじ、手首、指先などを使った多様な経験を就学前施設で経験しながら、「やってみようという気持ち」「最後まであきらめず繰り返しやろうとする気持ち」を育てていく。 イ 姿勢保持をするため、体の大きさにあった机や椅子を使用する。 ウ 保育や授業内容に子どもの興味関心のある遊びや日常発見した内容を取り入れながら、正しい姿勢につなげていく。 エ 言葉だけの働きかけでなく、見て理解できるようイラストを提示する。 オ 生活に密着している項目が多いため、保護者の協力や連携を呼びかける。

5 第5ブロック

(1) 第5ブロック連携校・園

小学校	幼稚園	こども園・保育園	認証保育所 認可外保育所
足立	春光	高和 子ひばり 五反野	Aloha International Preschool
弥生	城北	中央本町 足立梅島雲母 足立さくらんぼ やよい	ぱる★キッズ足立
弘道	弘道 五反野	トレジャーキッズあやせ 西綾瀬りりおっこ	
弘道第一	のぞみ	聖華こうどう キッズガーデン足立青井	

(2) 第5ブロック 令和5年度 連携活動の主な取組事例

ア 弥生小学校と中央本町保育園の取組

(ア) 展覧会見学【参加人数：23名】

小学生の作品は魅力的だったようで、紙粘土で作った作品や透明なプラスチック容器を素材にした作品を見て、「固まる粘土で作りたい」「こういうものでも作れるんだ」とつぶやいていた。「自分たちも展覧会をやりたい」との声があがり、「展覧会で見た作品を作りたい」「発表会で作ったものをみんなに見せたい」「大きなケーキを作りたい」と、様々な意見が出た。その後『めろん組クリスマス展覧会』に向けて、発表会で作った道具や衣装、クリスマスの飾りをどのように展示するかを考えていた。当日は、見学に来た保護者に率先して作品の説明をする姿が見られ、成長を感じた。



保護者に作品を説明中



展覧会の作品作り

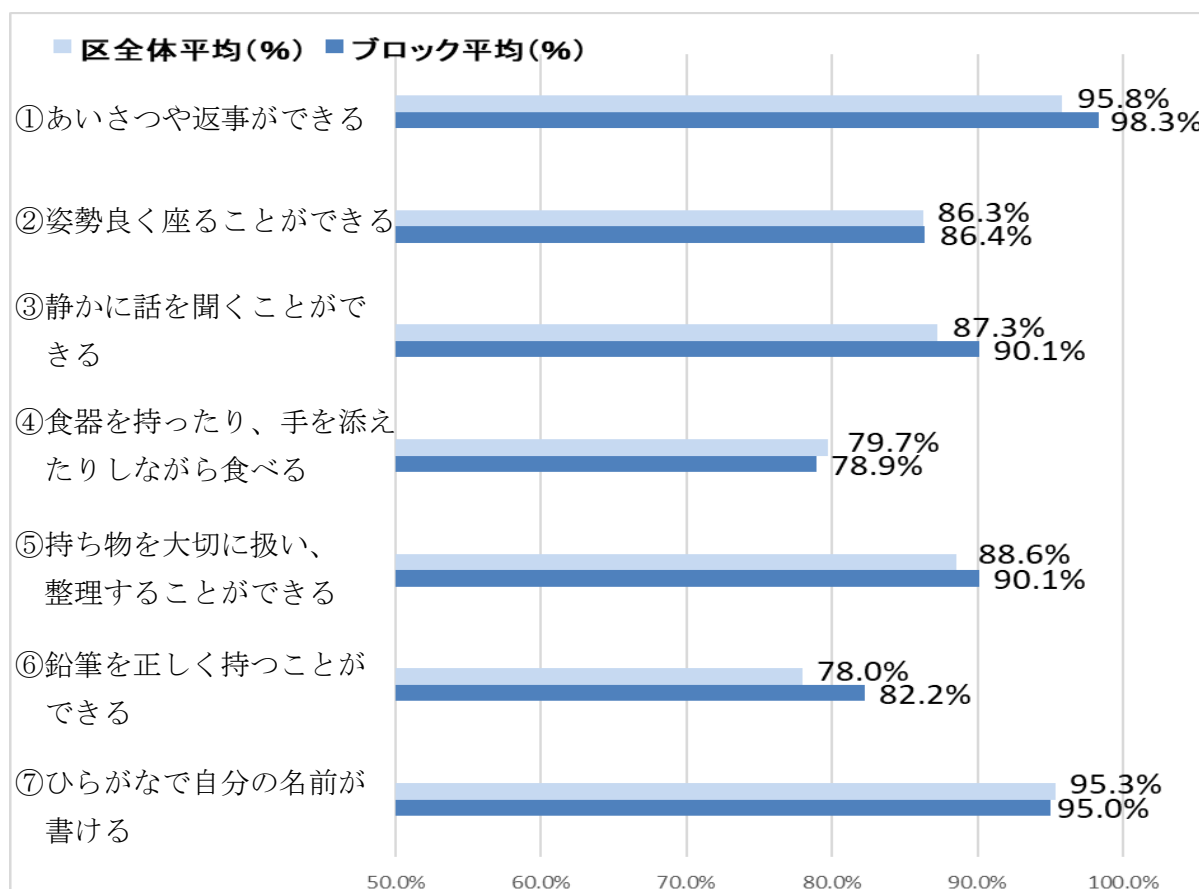
(イ) 授業体験、学校探検【参加人数：90名】

小学校との交流活動は、子どもたちにとって日々の生活の中での良い刺激となっている。授業体験や学校探検は、就学への期待にもつながっていると強く感じた。



(3) 令和6年度1年生アンケート結果（令和5年度実績）

第5ブロック集計結果



(4) 1年生アンケートの結果を受けた課題および取組

子どもの姿から見えてきた課題	課題に関する今後の取組方針
5ブロックの傾向を見ると、「姿勢良く座ることができる」「食器を持ったり、手を添えたりしながら食べる」「鉛筆を正しく持つことができる」が低い傾向にある。これはそのことだけを繰り返し練習したり、伝えたりするだけでは根本的な解決にならない。体幹や様々な運動機能を活性化させることで、これらの課題が解決していくのではないかと考える。ブロックの小学校⇄園との情報共有、運動の共有をすること、また職員同士だけではなく、保護者を巻き込み、意識の向上を図る取組を実施する必要がある。	ア ブロックの小学校、各園での活動内容の情報共有を行い、0歳から小学校低学年（7歳）までの体幹や様々な運動機能を活性化するように、まずは職員の研修会を実施していく。 イ 昨年度実施した小学校と園との交流活動を継続・充実させるとともに、幼稚園と保育園との交流活動も適宜行い、少人数から多人数への活動を小学校入学前に経験させる機会を持たせる。 ウ 学校公開、保育公開を通して、保護者にも活動内容を発信・共有し、家庭でも取り組めるように意識の向上を図る。

第6ブロック

6 第6ブロック

(1) 第6ブロック連携校・園

小学校	幼稚園	こども園・保育園	認証保育所
綾瀬	足立白うめ	あやせ 東部若葉 チェリッシュ綾瀬 キッズガーデン足立綾瀬	コンビプラザ 綾瀬
東綾瀬		東綾瀬 足立若葉 東綾瀬きらきら あやせババール園 恵YOU	
東加平	チェリー	北綾瀬聖華 にじいろ保育園綾瀬	
東渕江		東 チェリー 聖母のさゆり ソラストあだち東和	どんぐり保育園 東和
北三谷	親愛 美松学園	東和 HOPPA 東和親水	
大谷田		隅田学園※	
長門		隅田学園※	

※ 保育園の隅田学園は2校と連携している。

(2) 第6ブロック 令和5年度 連携活動の主な取組事例

ア 東綾瀬小学校と東綾瀬保育園の取組

(ア) 作品展見学【参加人数：23名】

作品展の玉ころがしに興味をもち、何度もビー玉を転がしていた遊びながら、「これはなんだろう」「釘かな?」「釘、知ってる! やったことある」と、会話が弾んでいた。保育園に帰るとすぐに、玉ころがしを作り始めた。素材や完成品を思い出しながら、「トンネルもあったよね」など、見て来たことを伝え合い、何度も厚紙や空き箱を切ったり貼ったりして、ビー玉が最後まで転がるように考えていた。作品展を見て、「面白そう」「やってみたい」という気持ちが、子どもたちを大きく動かした。

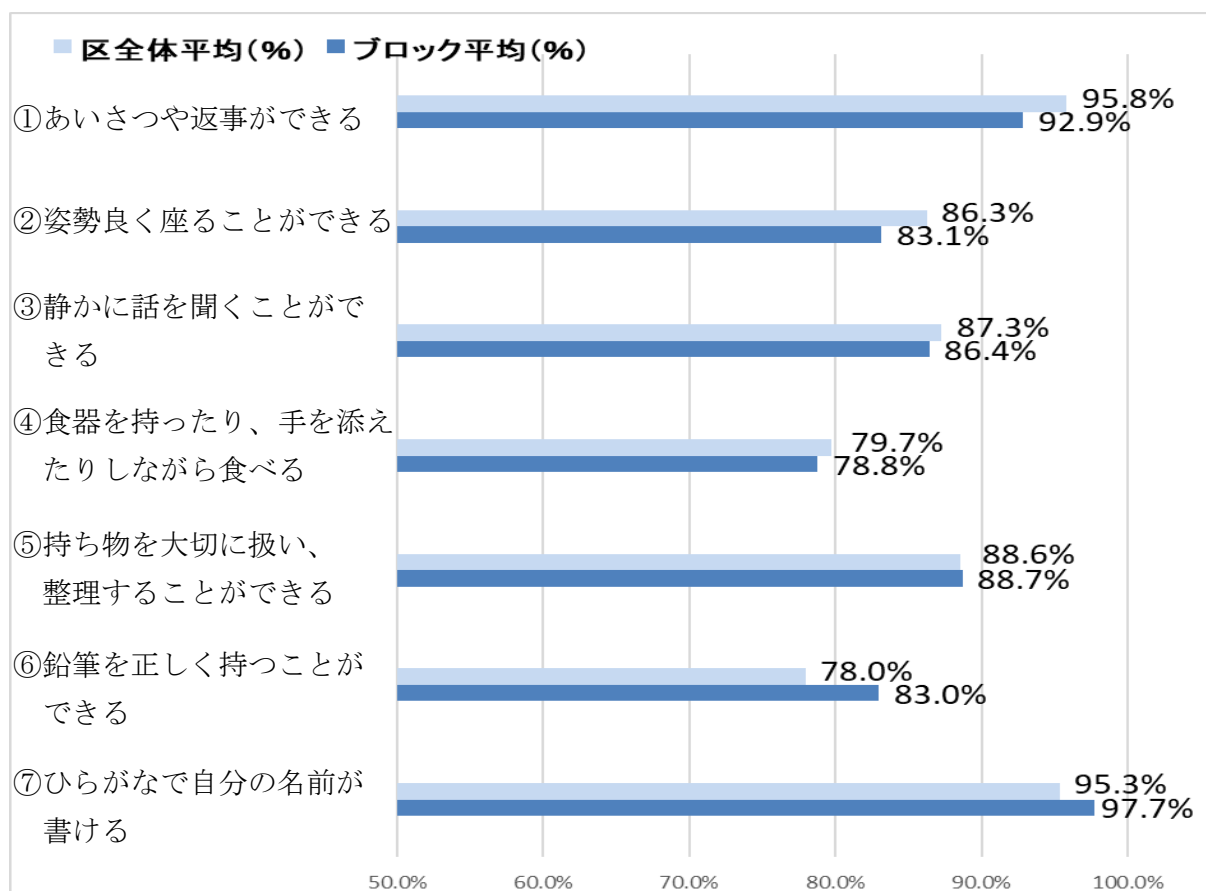


その後、板や釘を用意すると、釘を使ったビー玉ころがしも作った。ビー玉の通り道や、どうしたらうまくいくか、何を使えば良いかなど、友だちと考えを出し合っていた。上手く転がるまで根気よく作り直し、ルールや形を変化させながら遊んでいた。



(3) 令和6年度1年生アンケート結果（令和5年度実績）

第6ブロック集計結果



(4) 1年生アンケートの結果を受けた課題および取組

子どもの姿から見えてきた課題	課題に関する今後の取組方針
ア 鉛筆の持ち方は、区平均を上回っており、年々良くなってきている印象があるが、筆圧が弱いと感じることも多い。 イ 姿勢が保てない、食器を持って食べる子が少ないといったアンケートの結果から、体力不足の現状、運動機能の発達を促す活動の実践が幼保、小学校共に課題となって浮かび上がってきた。	幼保では、発達に沿った運動を十分に行っていく。むやみに発達を先取りしたり、子どもの意欲を削ぐような無理強いをしたりすることは避け、発達の道筋の中で生活や遊びを通して適正な運動量で体を支える筋肉を育てていく。小学校でも外遊びや体育の授業等の活動を通して体づくりを行っていく。

7 第7ブロック

(1) 第7ブロック連携校・園

小学校	幼稚園	こども園・保育園	認証保育所
中川		大谷田第一 足立北綾瀬雲母 AIAI NURSERY 北綾瀬	チェリッシュ 北綾瀬
中川北	黒川	六木	
辰沼		辰沼 きたあやせこころ 未来っ子保育園北加平町園 チェリッシュナーサリー スクールやなか	
中川東	東京いずみ	おおやた ナーサリースクール いずみ大谷田	
六木	六木	神明町	

(2) 第7ブロック 令和5年度 連携活動の主な取組事例

ア 中川小学校と大谷田第一保育園の取組

(ア) 体験授業【参加人数：23名】

1年生の担任が、保育園で小学校クイズやワークシートを使って算数と国語の授業を行った。ワークシートに書いてある音楽室の楽器と同じ数だけ色を塗ったり、ひらがなで書かれた言葉の中から正しいものを選んだりした。鉛筆の持ち方や着席の姿勢を褒められると集中する姿が見られ、真剣に参加していた。その後、手紙ごっこが盛んになり、文字への関心が深まった。



先生「登校してからやることは何でしょう」

園児「あいさつする」「荷物を置く」

先生「そう。教室に入ったらランドセルから荷物を出します」

先生「校庭には何があるでしょう」

園児「てつぼう」「すべりだい」

先生「鉄棒は保育園と一緒にだね」



楽器と同じ数の色を塗る。

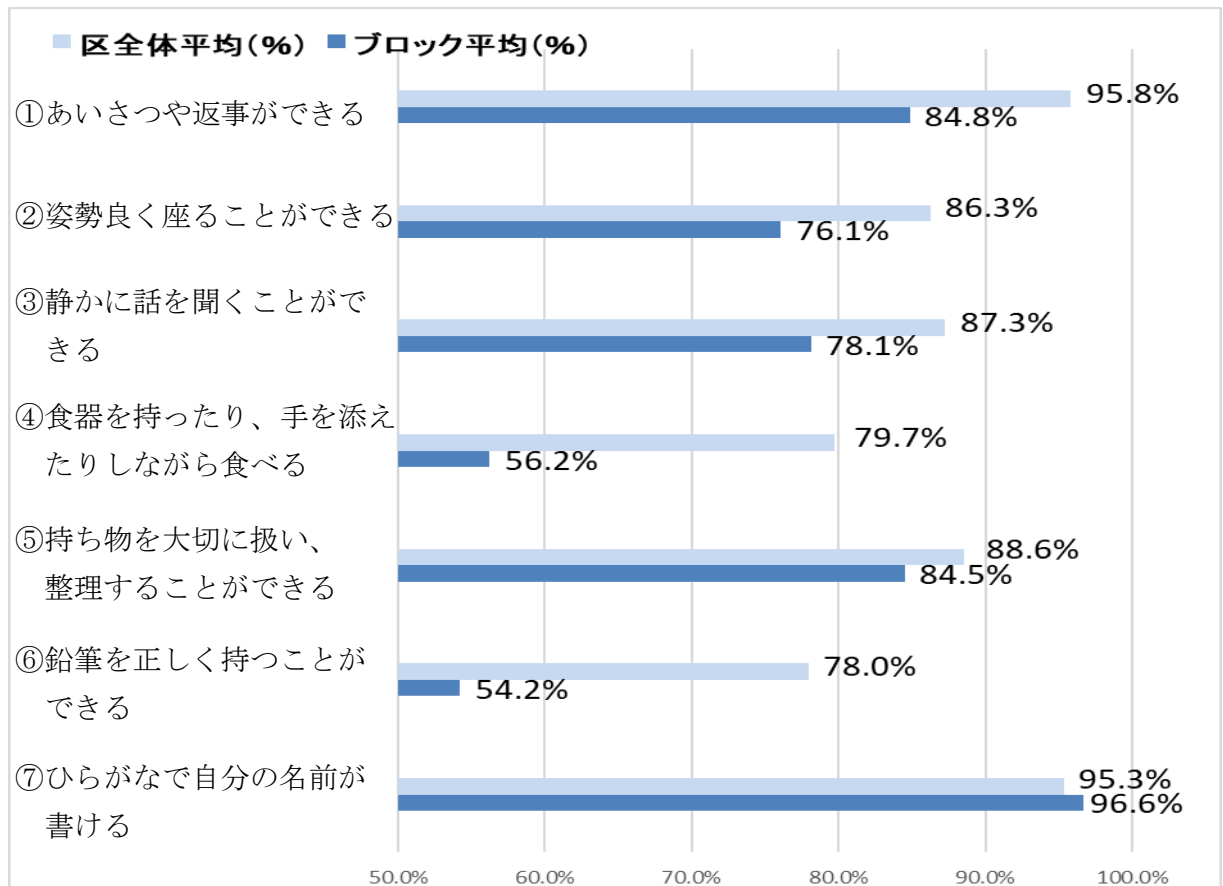
国語の授業体験では、ワークシートに書いてある言葉を声に出して読みながら、正しく書いているものを選んでいた。

(イ) 公開保育【参加人数：26名】

7月の「らいおんまつり」に向けて、射的、的あて、魚つりで遊び、気づいたことを話し合ったり、試したり工夫したりする姿を、参加した小学校の先生や他園の保育者と共有した。魚つりでは、「小さい魚は赤ちゃんが食べちゃうからやめよう」と、小さい子のことを考えて活動する姿が見られた。協議会では、「子ども一人一人意欲的な姿が見られ、楽しそうに遊んでいた」「子どもの思考を促す声掛けをしていた」「学校と違い、指示がなく流れるように過ごしている印象だった」など、意見が出た。その後、活動の区切りを言葉で伝えたり、時計を利用したりし、時間を意識できるようにした。公開保育は、互いの違いを知る場となっている。

(3) 令和6年度1年生アンケート結果（令和5年度実績）

第7ブロック集計結果



(4) 1年生アンケートの結果を受けた課題および取組

子どもの姿から見えてきた課題	課題に関する今後の取組方針
第7ブロックは、多くの項目において区全体平均より見ても低く、特に項目④と⑥が低い。 就学前施設では、まず文字への関心を持たせる活動や手指発達について年齢に合わせてどのように取り入れていくのかを考えていく必要がある。また、小学校では、“書く”ことを大事にして1年生のうちに丁寧に指導していく必要があるとともに、家庭への啓発を繰り返し行うことも大切であるとする。	ア アンケート⑥に関する取組方針 学校公開や公開保育を活用して、教員と保育者双方で文字への関心の持たせ方の工夫と0歳児から手指機能の発達がどのように鉛筆を正しく持てることにつながっていくのかを共有し就学後の指導にも活かしていく。また、家庭へも鉛筆を正しく持つことの意味を繰り返し発信し、意識向上につなげていく。

(次ページに続く)

第7ブロック

子どもの姿から見えてきた課題	課題に関する今後の取組方針
項目④については、まず生活習慣の見直しと運動機能の促進が必要と考える。	イ アンケート④に関する取組方針 生活習慣の大切さを家庭に発信し意識向上につなげていくと同時に、就学前施設では給食時に丁寧にかかわり、子ども自身が自然と食器に手を添えることが身に付くようにしていく。また、背筋、腹筋や体幹を育てるために0歳児からの体づくりに取り組み運動機能の発達を促進していく。

8 第8ブロック

(1) 第8ブロック連携校・園

小学校	幼稚園	こども園・保育園	認証保育所
栗島	栗島		
加平	あおい	たんぽぽ保育所六町園 たんぽぽ保育所第二六町園 六町駅前 野のはな	
東栗原		東栗原 明日葉保育園保塚園 クレアナーサリー 足立さくら園	
平野	足立つくし	平野	
青井		明日葉保育園青井園 AIAI NURSERY 綾瀬六丁目 青井	

(2) 第8ブロック 令和5年度 連携活動の主な取組事例

ア 加平小学校とたんぽぽ保育所六町園の取組

連携園が多いため、教員・保育者側の事前準備として年度初めの幼保小連携ブロック会議で、連絡役を決めてスケジュールの調整を行った。小学校側が、校庭・図書室の空いている時間を共有し、各園の都合に合わせて交流をした。学校探検の交流は、事前に校庭遊具マップを作成し、安全面の配慮を行った。

R5加平小 校庭の空時間					
ぜんき	げつ	か	すい	もく	きん
8:00-8:15	11:00-11:15	12:00-12:15	13:00-13:15	14:00-14:15	15:00-15:15
8:25-8:40	11:25-11:40	12:25-12:40	13:25-13:40	14:25-14:40	15:25-15:40
①8:40-9:25					
②9:25-10:10					
③10:10-10:55					
④10:55-11:40					
⑤11:40-12:25					
⑥12:25-13:10					
⑦13:10-13:55					
⑧13:55-14:40					
⑨14:40-15:25					
⑩15:25-16:10					
⑪16:10-16:55					
⑫16:55-17:40					
⑬17:40-18:25					
⑭18:25-19:10					
⑮19:10-19:55					
⑯19:55-20:40					
⑰20:40-21:25					
⑱21:25-22:10					
⑲22:10-22:55					
⑳22:55-23:40					
㉑23:40-24:25					
㉒24:25-25:10					
㉓25:10-25:55					
㉔25:55-26:40					
㉕26:40-27:25					
㉖27:25-28:10					
㉗28:10-28:55					
㉘28:55-29:40					
㉙29:40-30:25					
㉚30:25-31:10					
㉛31:10-31:55					
㉜31:55-32:40					
㉝32:40-33:25					
㉞33:25-34:10					
㉟34:10-34:55					
㊱34:55-35:40					
㊲35:40-36:25					
㊳36:25-37:10					
㊴37:10-37:55					
㊵37:55-38:40					
㊶38:40-39:25					
㊷39:25-40:10					
㊸40:10-40:55					
㊹40:55-41:40					
㊺41:40-42:25					
㊻42:25-43:10					
㊼43:10-43:55					
㊽43:55-44:40					
㊾44:40-45:25					
㊿45:25-46:10					

(ア) 校庭遊び【参加人数：112名】

1年生担任の案内により、事前に校庭遊具のマップを用いて安全確認を行った。入ってはいけない場所や、うんてい・ジャングルジムの手すりの持ち方を伝えると、園児は、ワクワクして先走る気持ちをぐっとこらえながらも、真剣に話を聞くことができた。確認後、校庭で1年生と合流し、走ったり、遊具に上ったりして元気よく遊んでいた。「鉄棒できるよ!」「競争しよう!」など、1年生も上級生として、積極的に関わっていた。1年生の中には、保育園の先生や、知っている年下の子どもたちに会えたことを喜ぶ姿もあった。幼稚園や保育園の子どもたちも、広い校庭で思う存分遊び、笑顔が飛び交い、「まだ遊びたい!」との声も上がっていた。

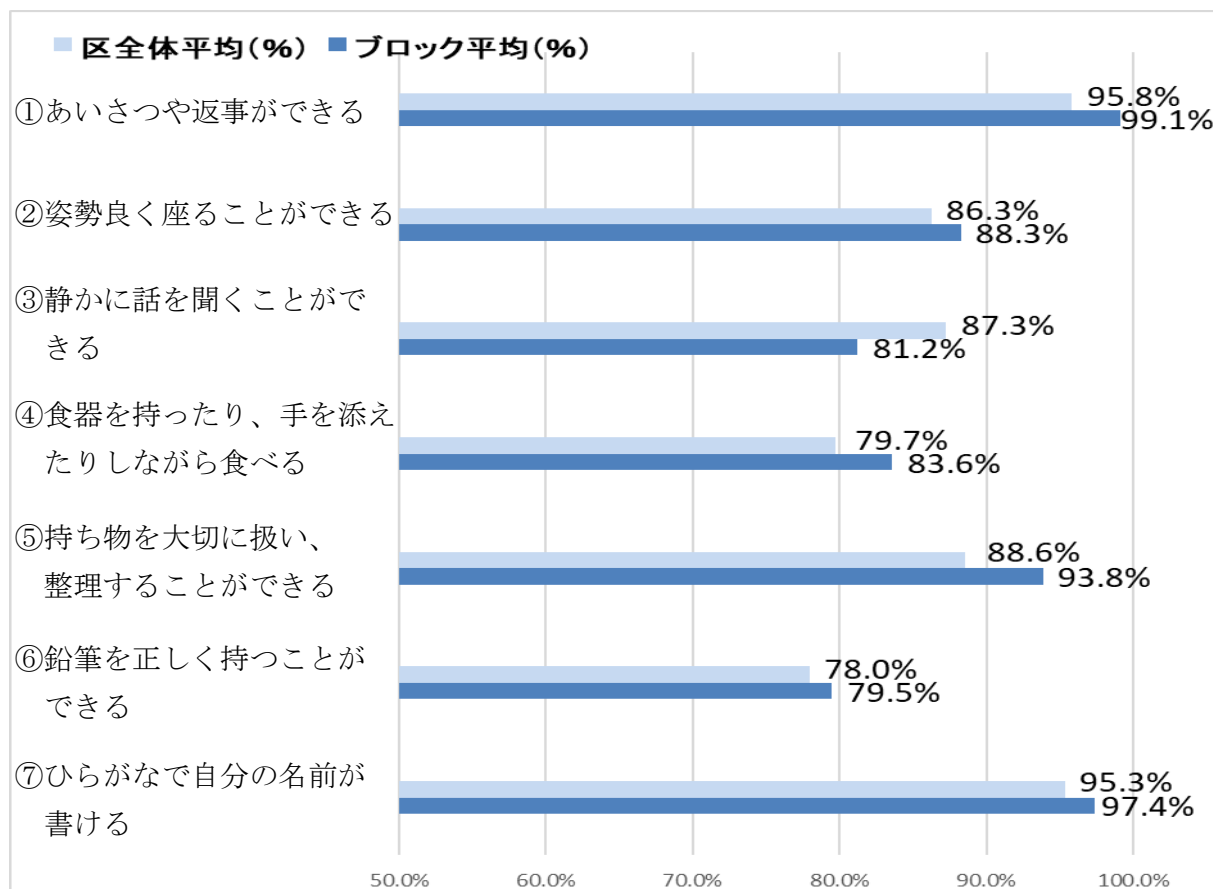
(イ) 学校探検【参加人数：112名】

校庭遊びと同じ日に実施した。1年生担任の案内で、各教室、特別教室（理科室、図書室、音楽室など）を見学した。「静かだね」「プール大きいね、深そうだな」など、幼稚園や保育園の違いに驚く様子や、「ピアノだ!僕たちのところにも同じのある!」など、園と同じところに気付く園児もいた。実際に、学校や学習の様子、小学校生活を目で見ることで、想像だけで終わらず、見通しをもつことができたように感じた。



(3) 令和6年度1年生アンケート結果（令和5年度実績）

第8ブロック集計結果



(4) 1年生アンケートの結果を受けた課題および取組

子どもの姿から見えてきた課題	課題に関する今後の取組方針
ア 正しく座ることはできるが、長い時間姿勢を保持することが難しい。	ア 姿勢保持については、幼児期の体づくりから取り組んでいく。
イ 話を聞こうとする姿勢はあるが、話を最後まで聞けずに、話の途中で口をはさむ児童がいる。	イ 授業体験、体験給食、学校紹介、ランドセルや教科書に触れる体験などを通して、小学校への期待感につなげる。
ウ 食器の中に箸やスプーンを置きっぱなしにする。器が重いのか片手で持って食べる児童が少ない。食器に手を添えられない。	ウ 教員と保育者の研修(授業参観、学校公開、保育観察など)を実施し、それぞれの子ども様子を観察し、教育・保育に活かす。
エ 鉛筆や箸の持ち方が正しく持てない児童がいる。	エ 小学校の校庭で1年生と5歳児と一緒に遊ぶ交流の機会をつくる。生活科(自然探しなど)を一緒に行う。
オ 文字や数字の書き順を正しく書けない。	
カ 一文字ずつ読む児童、すらすら読む児童など「読む」姿には個人差がある。	

(次ページに続く)

子どもの姿から見えてきた課題	課題に関する今後の取組方針
	オ 保護者に小学校の準備についての心構えを伝えるため、園の保護者会にて校長先生の講話を実施する。 カ 1年生の担任が5歳児の保護者会に参加する。 キ 手を使う教材を使って箸や鉛筆を正しく持つことにつなげる。子どもが興味をもったタイミングで正しい使い方を紹介する。 ク 鉛筆の持ち方の動画を見る(3歳児から)。シールを貼って持つ場所が分かるようにする。 ケ 鉛筆を持つのは小学校に入ってから指導するのでよい。ある程度経験しているため、細かいところまで見取っていく必要はない。 コ 「持ち方にクセがついている」と思っていたが、児童は単に自分の持ちやすい持ち方になっているという見方もできる。手指の機能を上げて、だんだんに正しい持ち方へ導く。「この持ち方の方が上手に書けるよ」とポジティブな言葉かけをする。 サ 文字を読む過程の中で、児童は単語や文節の文字を一つのかたまりとして認識する。単語(文字)と物を結び付けるようなイラストを使った視覚的な働きかけを意識する。

9 第9ブロック

(1) 第9ブロック連携校・園

小学校	幼稚園	こども園・保育園	認証保育所
花畑		六町あづま	
花畑第一		東花畑	
花畑西	杉の子		
桜花	花畑八千代	花畑桑袋 レイモンド花畑	
花保	石鍋	南保木間 愛隣 六町 東保木間	

(2) 第9ブロック 令和5年度 連携活動の主な取組事例

ア 花畑西小学校と杉の子幼稚園の取組

(ア) 授業体験、体験給食【参加人数：115名】

教室で小学生の席に座ったり、ランドセルを背負ったりすると、子どもたちは、「もう小学生になったみたい」と嬉しそうな様子だった。授業体験や小学校の給食を食べたことで安心感につながり、「早く学校に行きたい」との声が聞かれた。



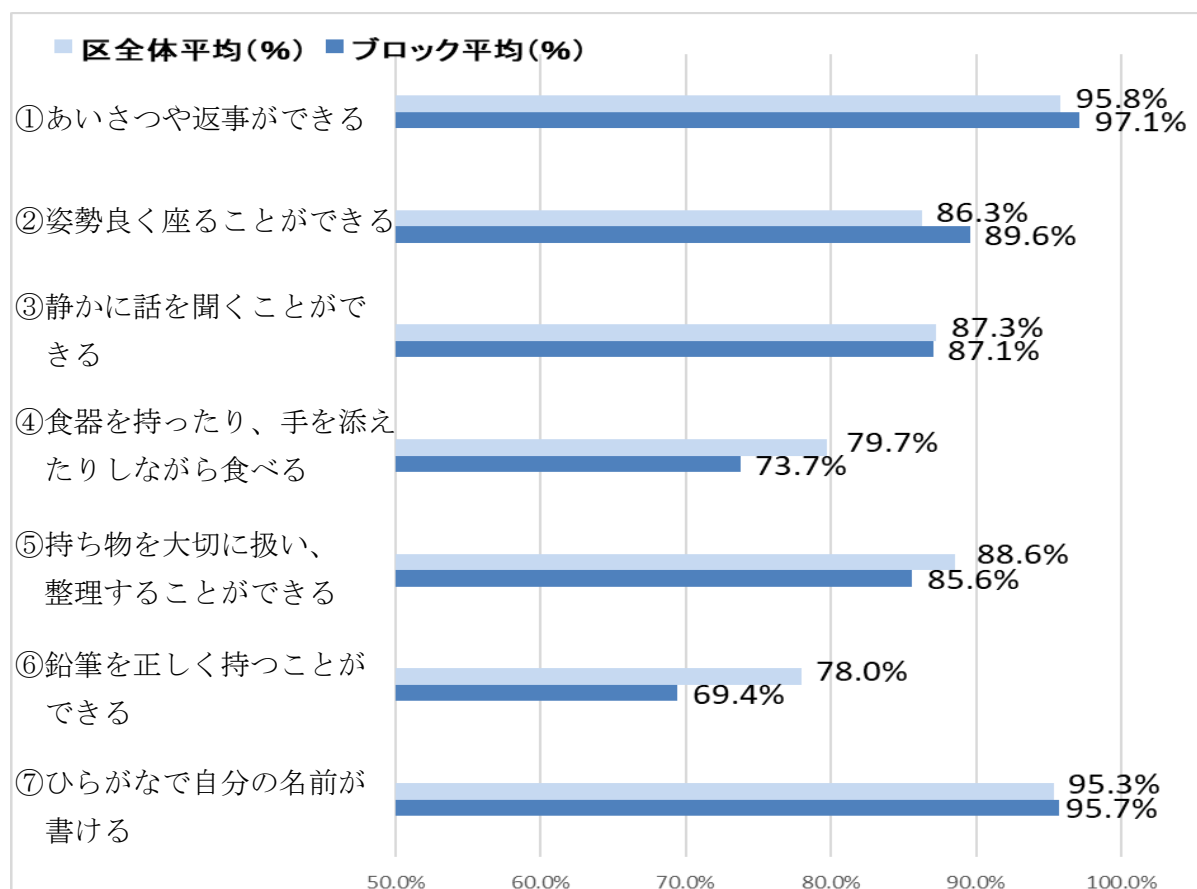
(イ) 学校探検、校庭体験【参加人数：115名】

保健室や図工室を見学すると、子どもたちは「小学校って広いね」と驚いていた。図書室ではたくさんの本があることに驚いていたが、自分で本を選ぶうち、知っている本や見たい本が見つかり、嬉しそうだった。校庭では、鉄棒に興味をもち、補助板を勢いよく駆け上がっては、繰り返し逆上がりに挑戦していた。



(3) 令和6年度1年生アンケート結果(令和5年度実績)

第9ブロック集計結果



(4) 1年生アンケートの結果を受けた課題および取組

子どもの姿から見えてきた課題	課題に関する今後の取組方針
ア アンケート①②③に関する課題 何も言わなくてもできる場合と、言ったらできる場合があるが、概ねできている。 イ アンケート④⑥に関する課題 手を上手に使えないという傾向がある。	ア アンケート①②③に関する取組方針 (ア)「思いを言葉で伝える」ことを年長時から意識して行う。 (イ) 困った時に「困っている」と伝えられるようにする。語彙の獲得を行っていく。 イ アンケート④⑥に関する取組方針 (ア) 年長時に手を添えることを伝えていく。 (イ) 年長時に指先を使った遊びを取り入れていく。 (ウ) 保護者にも協力してもらう。 (エ) 先生の話を目を見て静かに聞けるようにする。姿勢よく座る→箸や鉛筆の持ち方につながる。

(次ページに続く)

第9ブロック

子どもの姿から見えてきた課題	課題に関する今後の取組方針
ウ アンケート⑤に関する課題 持ち物の扱いには個人差がある。持ち物の整理が苦手な子どもが多い。 エ その他課題 (ア) 名前を書けるが、丸文字など文字の形が決まっている子もいる。 (イ) 指先の力が弱い（牛乳パックをつぶす、名札の取り扱いなど）。 (ウ) 集団行動や話すことが苦手な子ども、外国籍の子どもが増えている。	ウ アンケート⑤に関する取組方針 年長時に自分の持ち物を大切にする気持ちを育てていく。

10 第10ブロック

(1) 第10ブロック連携校・園

小学校	幼稚園	こども園・保育園	認証保育所
中島根		中島根	
渕江	竹塚	竹の塚北	
渕江第一	小倉	保木間 北保木間 まなびの森保育園竹ノ塚	
西保木間		西保木間 水神橋	
保木間		竹の塚	
竹の塚	ふちえ	渕江	保育園ミルキー ウェイ竹の塚

(2) 第10ブロック 令和5年度 連携活動の主な取組事例

ア 中島根小学校、保木間小学校と中島根保育園、竹ノ塚保育園、保木間保育園、北保木間保育園、小倉幼稚園の取組

(ア) 公開保育【参加人数：9名】

中島根保育園における5歳児の朝の会、食育活動（ジャガイモを洗う）、運動遊び（ボールを使ったゲーム）を小学校の教員や保育者が一緒に見て、協議をした。子ども同士が意見を出し合い相手の意見を聞く姿、子どもから出た気付きを保育者が受け止めている場面を見て、就学後の子どもの姿に繋がる活動や関わり方を考えるきっかけとなった。



イ 中島根小学校と中島根保育園の取組

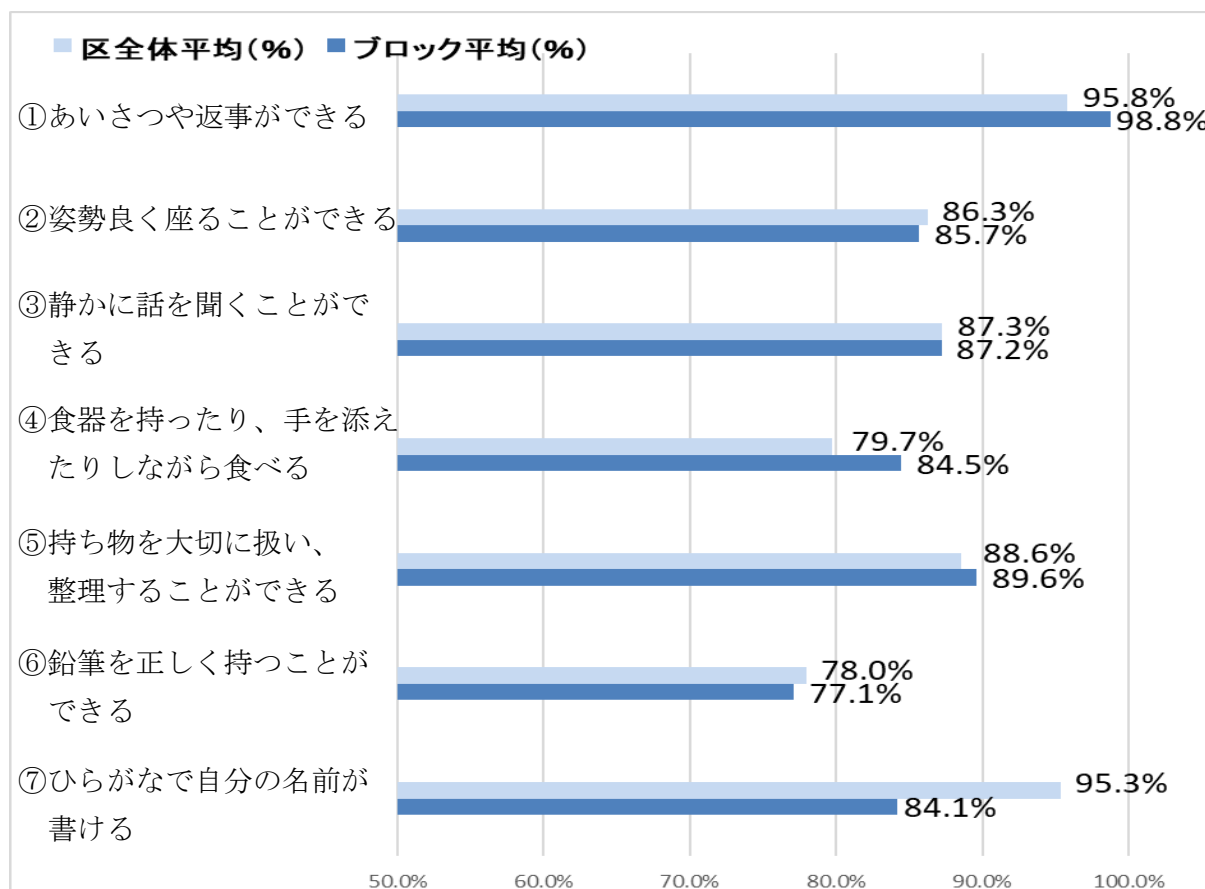
(ア) 交流研修【参加人数：30名】

5歳児が遊ぶ様子を参観した後、1年生の担任がミニ授業を行った。一方を向いて座り学校の先生の話聞く体験は園児にとって新鮮であり、緊張と同時に誇らし気でもあった。座る姿勢で意識することや発言する時の態度などを聞いたことで、その後の子どもたちの姿が大きく変わった。また、学校の先生に褒められたことが自信となり、入学への期待につながった。



(3) 令和6年度1年生アンケート結果（令和5年度実績）

第10ブロック集計結果



(4) 1年生アンケートの結果を受けた課題および取組

子どもの姿から見えてきた課題	課題に関する今後の取組方針
ア アンケート⑦に関する課題 ひらがなで自分の名前が書けるという項目が、10ブロックでは、区の平均から大きく下回っている。外国籍の家庭へのアプローチに課題を感じる。	ア アンケート⑦に関する取組方針 (ア) 就学前施設では名札や言葉遊びを取り入れ子どもたちが文字に興味をもてる環境を整えている。 (イ) 書き順や鏡文字になった時の働きかけをしながらも、意欲をそこなわないように留意している。 (ウ) 学校では、名前の見本をみて書くなど取り組んでいる。

(次ページに続く)

子どもの姿から見えてきた課題	課題に関する今後の取組方針
イ アンケート②に関する課題 姿勢良く座ることができるという項目が難しい子どもも多く、机にもたれかかってしまったり、姿勢が崩れ横向きになったりする姿が見られる。	イ アンケート②に関する取組方針 就学前施設でも年長児は、『グー・ペタ・ピン』に取り組んでいる。リズム遊びなど体幹を使う運動遊びを取り入れていく。 ウ アンケート⑥に関する取組方針 (ア) 癖がついてしまった子どもを直すことに困難を感じている。 (イ) 正しい鉛筆の持ち方を身につけていくということは大切だと感じる。 (ウ) 極端な癖のある持ち方が身につくと、学校に入って学習を進める中で、素早くかけなかったり、疲れたり、ということも起きるので、就学前は無理のない範囲で持ち方を意識できると良い。

11 第 1 1 ブロック

(1) 第 1 1 ブロック連携校・園

小学校	幼稚園	こども園・保育園	認証保育所
西新井 第二		西新井 iー保育園 清水 アスク西新井	
西伊興	佐藤	ういず西新井	
栗原北	はなぞの	くりはら愛育 伊興大境	たんぽぽ保育所 竹の塚園
伊興	福寿院	伊興	
東伊興	本行寺第二伊興	伊興すみれ こころたけのつか	

(2) 第11ブロック 令和5年度 連携活動の主な取組事例

ア 伊興小学校、西伊興小学校、東伊興小学校、西新井第二小学校と伊興すみれ保育園、伊興保育園、西新井保育園、福寿院幼稚園の取組

(ア) 公開保育【参加人数：10名】

伊興すみれ保育園の公開保育で、小学校の教員や幼稚園、保育園の保育者が幼児の姿と一緒に見た後、ブロックの課題、「静かに話を聞くことができる」を視点に、協議をした。



絵画制作の前に話を聞いている様子



ドッチボールを通しての学び

(イ) 協議会内容

ア 伊興すみれ保育園の絵画制作では、保育者の説明が分かりやすく、声の大きさ、速さが良く、子どもたちは集中して話を聞こうとしていた。

イ 事前に画用紙に線を引いておくことで、子どもがイメージを膨らませることができるよう配慮されていた。

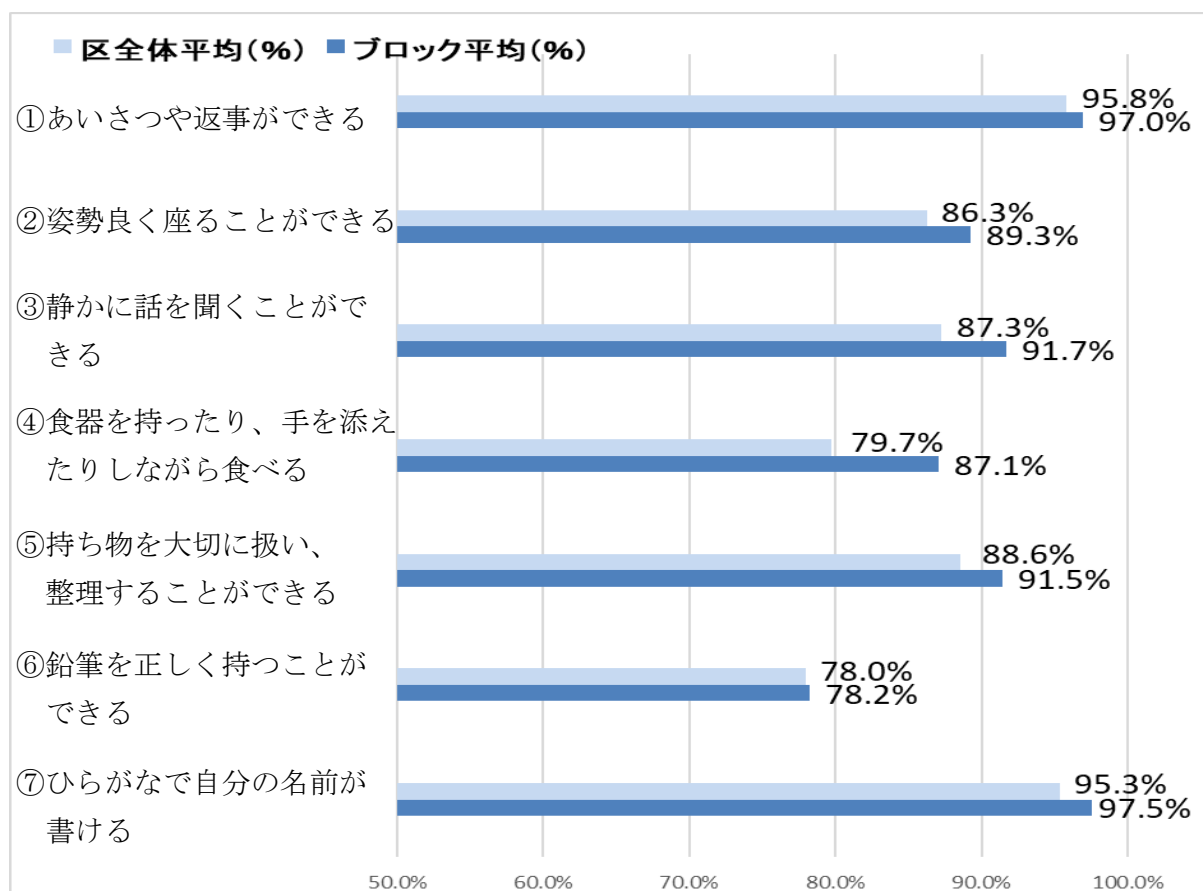
ウ 鉛筆を正しく持てるようになってきている。描くことを楽しむ中で正しい持ち方に気づかせるように声をかけていた。

エ ドッチボールでは、子どもは活動を楽しみに、自分たちで準備を進めていた。チームの友達と声を掛け合い、ルールを守りながら、思い切り体を動かし楽しむ姿が見られた。

教員と保育者が協議をすることで、幼児期の遊びや環境を通して総合的に行う教育・保育が、小学校で学ぶ喜びや意欲態度を育む基礎となっていることを知ることができた。

(3) 令和6年度1年生アンケート結果（令和5年度実績）

第11ブロック集計結果



(4) 1年生アンケートの結果を受けた課題および取組

子どもの姿から見てきた課題	課題に関する今後の取組方針
ア すべての項目で区全体平均を上回っている。ブロックとして成果を上げているので、今後も継続していく。 イ 鉛筆の正しい持ち方が他項目と比べてできていない。就学前施設、小学校とも鉛筆やクレヨンなどを使わせるときにはじめに持ち方の指導をするが、定着が難しい。癖がついていると直すのが難しい。学習中は学習への意欲、集中を削がないようにするため、正しく持っていない子には正しい持ち方をするように促すに留めていることもあり、徹底できていない。	ア 鉛筆の正しい持ち方は、持ち方の指導の前段階として、手指を使う遊びを行うなど持ち方につながる動きを多く取り入れる。 イ 小学校見学・体験では、就学への期待感の高まりがみられた。また、体験で教えたもらったことを就学前施設や家庭で練習する姿も見られた。小学校見学・体験の機会を生かして①～⑦に関する指導ができるよう内容を工夫する。 ウ 授業体験では返事、着座姿勢、鉛筆の持ち方の指導、体験給食では食器の持ち方やマナーの指導、そのほか昇降口で立ったまま靴を履き替えることなど、小学校で必要となることを実態に応じて入学前に指導する。

12 第12ブロック

(1) 第12ブロック連携校・園

小学校	幼稚園	こども園・保育園	認証保育所
鹿浜第一		足立このみ SAKURA 保育園谷在家 谷在家	
鹿浜未来	鹿浜愛育	鹿浜 太陽	
鹿浜五色桜	江北白百合	第三上沼田	
皿沼		加賀	
新田 (新田学園)		新田わかば 新田 ココロット 保育園ヴィラココロット 新田さくら 新田おひさま	

(2) 第12ブロック 令和5年度 連携活動の主な取組事例

ア 皿沼小学校と加賀保育園の取組

(ア) 1年生との交流、図書室体験、5年生との交流

【参加人数：110名】

1年生の国語の授業「おおきなかぶ」の言語表現劇を参観した。園児はよく知っているお話だったので興味深く見ていた。体育館では、1年生と一緒に鬼ごっこを楽しんだ。図書室体験では図書ボランティアの方に読み語りをしてもらった後、好きな本を手に取りじっくり読む姿もあった。交流後、園では学校ごっこを楽しむ姿が見られた。

5年生との交流では、椅子取りゲームを楽しんだ。給食では、5年生が丁寧に優しく教えてくれ、「おいしかった」「給食楽しみ」との声が聞かれた。



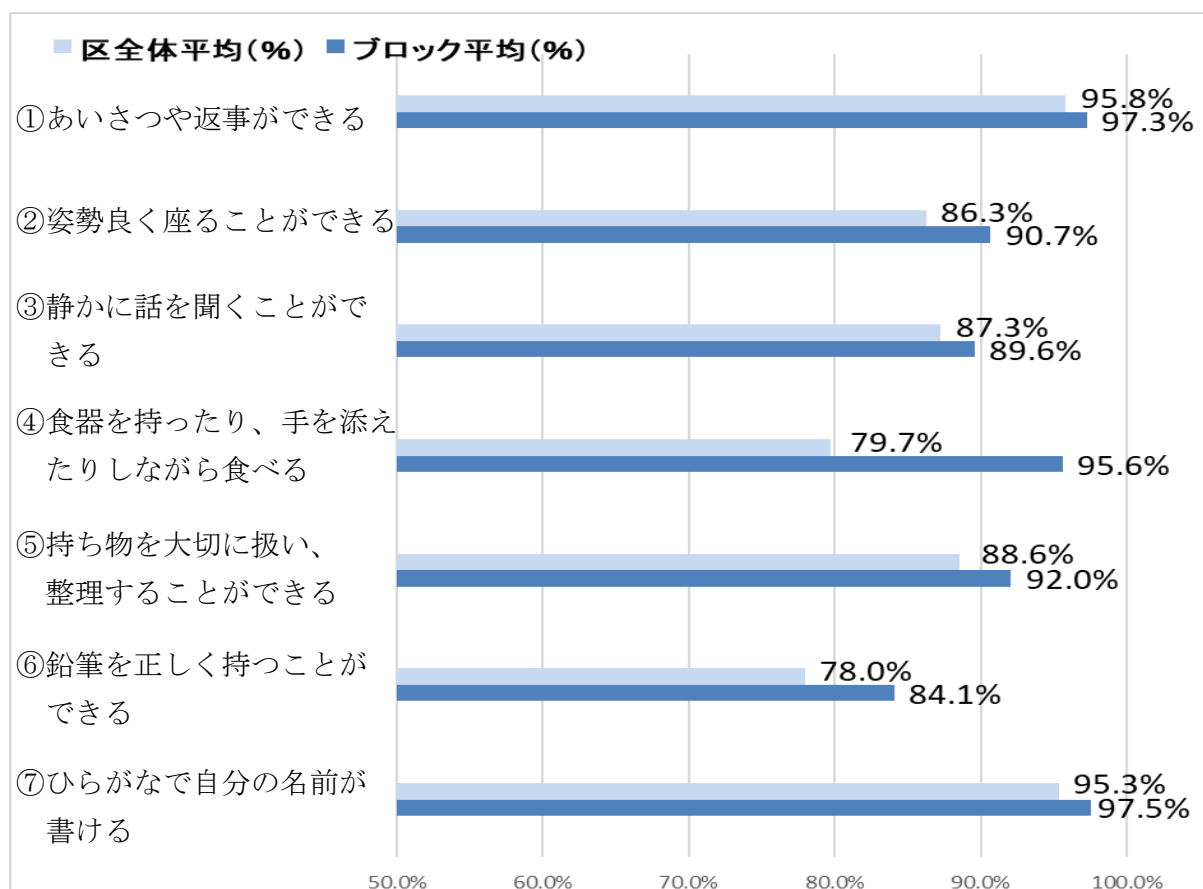
イ 新田小学校と新田保育園、新田さくら保育園、ココロット保育園、保育園ヴィラ・ココロット、新田おひさま保育園、新田わかば保育園の取組

(ア) 新田地区座談会【参加人数：24名】

7月に1年生担任、現5歳児担任、前5歳児担任が集まり、入学後の子どもの姿、5歳児の育ちについて意見交換をした。あだち幼保小接続期カリキュラムの「自ら体を整える」をテーマにした意見交換では、各園の状況や課題、特色や取り組み内容などを知るよい機会になった。

(3) 令和6年度1年生アンケート結果（令和5年度実績）

第12ブロック集計結果



(4) 1年生アンケートの結果を受けた課題および取組

子どもの姿から見えてきた課題	課題に関する今後の取組方針
ア 小学校 (ア) 鉛筆の持ち方については自己流になるとなおすことは難しい。 (イ) 姿勢を保持して一定時間過ごすことが難しい子どもが多い。 (ウ) 箸を正しく持つことができる子と持てない子の差がある。 イ 就学前施設 (ア) 継続して姿勢を意識して取り組んだことで②③④⑥のポイントが上がった。 (イ) 生活スタイルの変化も影響し、生活の中で手先を使う動作が減っているためか、微細な活動が難しくなっている。	ア 新田小ブロックでは、引き続き遊びの中で体のバランスとる動き（歩く、登る、四つ這いなど）に意識的に取り組み、姿勢保持ができる体づくりをしていく。また、意識的に手先を使う遊びも取り入れていく。 イ やる気や、やってみたい意欲がある子どもが多いので、やる気がなくならないよう、のびのび過ごせるようにしていく。 ウ 自分の思いを伝えられる子、認められたい子どもが多いので受け止めていくようにする。 エ 正しく鉛筆を持てるよう、年長になる前から筆記具選びも含め、年齢、発達に合わせるについて研究していく。

13 第13ブロック

(1) 第13ブロック連携校・園

小学校	幼稚園	こども園・保育園	認証保育所
舎人	足立みどり	聖 アスクとねり アスク舎人駅前	てのひらこども園
舎人第一	とねり伊藤	いりや第二	
足立入谷		いりや第一	
古千谷	足立つばめ 舎人		

(2) 第13ブロック 令和5年度 連携活動の主な取組事例

ア 足立入谷小学校といりや第一保育園の取組

(ア) 学校探検、体験給食【参加人数：32名】

学校探検で園児は体育館、音楽室、図書館、1年生の授業を見学する。授業の雰囲気を肌で感じる機会となった。また、1年生の話を聞く態度や発表する姿を見て、憧れや就学への期待をもち、保育園でも姿勢よく座ることを意識する子が増えてきた。

体験給食では、1年生が献立を説明してくれたり、牛乳パックの開け方を教えてくれたり、困った時はお兄さん、お姉さんが助けてくれることを知り、安心感をもったようだ。



イ 舎人第一小学校ととねり伊藤幼稚園、いりや第二保育園の取組

(ア) 公開保育【参加人数：34名】

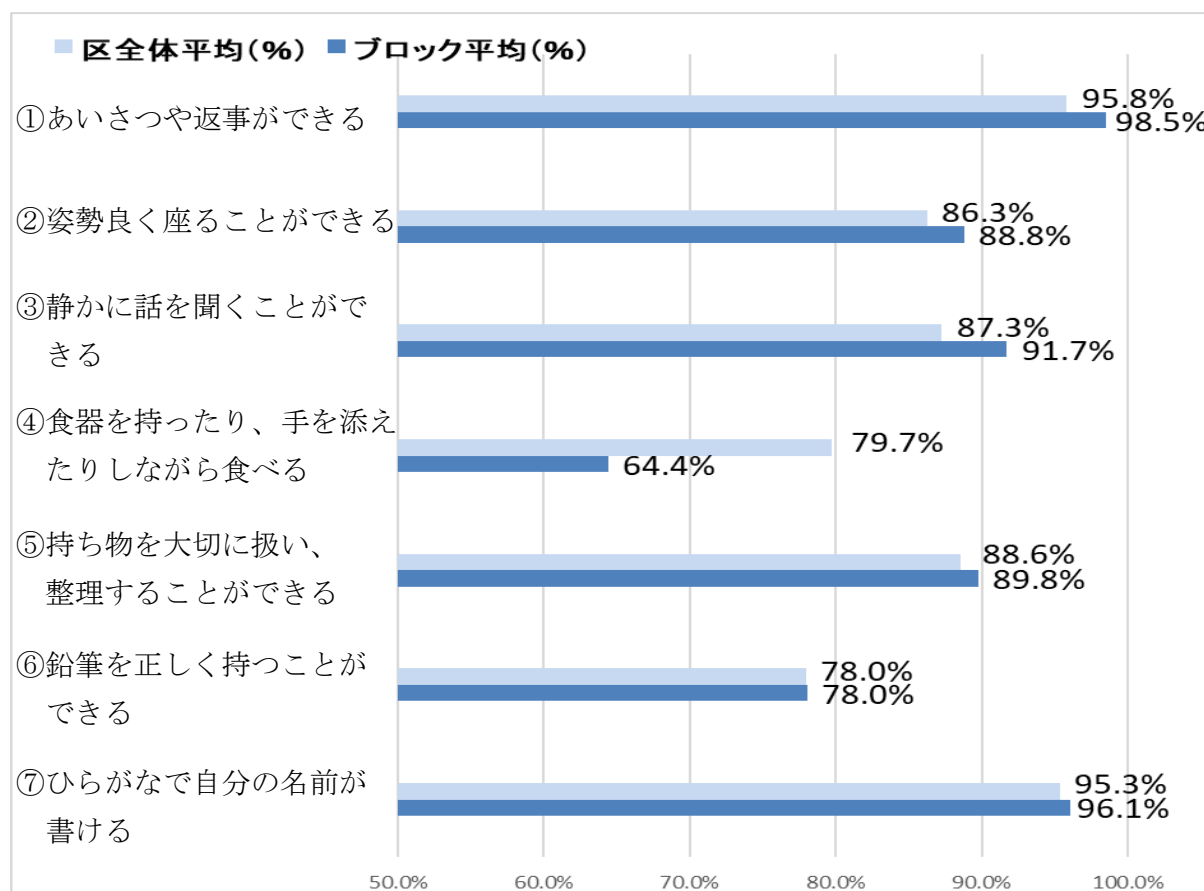
10月、1月に小学校、幼稚園、保育園との交流活動を行った。

段ボール制作の後の協議会では園児の状況を把握し合い、遊びの中にたくさんの学びがあり小学校以降の基礎となることや、接続期の指導の在り方について学ぶことができた。



(3) 令和6年度1年生アンケート結果（令和5年度実績）

第13ブロック集計結果



(4) 1年生アンケートの結果を受けた課題および取組

子どもの姿から見えてきた課題	課題に関する今後の取組方針
ア 鉛筆の持ち方・書字・姿勢について (ア) 就学前段階では、三角鉛筆や持ち方の補助をするアイテムを使用する、4歳児から指導を行う、年長に上がる際に自分の力で正しく持てるようになることを目標とするなどしているが、小学校入学までに全ての子に定着させることは難しい。 (イ) 入学の時点ですでに癖がついてしまっており、正しい形に戻すのが難しい。 (ウ) 持ち方を直すと書字が乱れてしまう。 (エ) 手の小さな園児に正しい持ち方を指導することは難しく、書く意欲を重視したい。	ア 鉛筆の持ち方・書字・姿勢について (ア) 入学前に身に付けた鉛筆の持ち方を矯正することが難しいため、使い始める初期の指導の大切さについて、園・保護者・学校で改めて共通認識を徹底する。 (イ) 「鉛筆の正しい持ち方」が国語科の指導内容にあることを踏まえ、指導の徹底に努めるが、その際、持ち方の矯正を図ることが書く意欲の減退につながることをないよう十分配慮する。 (ウ) 授業の初めに鉛筆の持ち方を確認し、持ち方が違う児童には、その都度個別に声を掛ける等の指導を粘り強く行う。

(次ページに続く)

子どもの姿から見てきた課題	課題に関する今後の取組方針
(オ) 姿勢の悪さも気になる。目にもよくない。 (カ) 「鉛筆を正しく持つ」ということに対する家庭の意識が低い。 (キ) 就学前に独自の持ち方をしてしまうと、小学校入学後、ネガティブな指導から始まってしまう。 イ 食事のルール・マナー等について (ア) 食器を置いたまま食べている子が多い実態がある。 (イ) 食器の大きさや形状が「持って食べる」に適さない実情もある。 (ウ) 箸がうまく持てないこともあり、食器を持たず、自分の体を近づけて食べる子がいる。 (エ) 食べるのに時間がかかる。入学当初は30分、慣れてきたら20分で喫食できるようにさせたい。 (オ) 食器を押さえられていないと、学年が上がっても食べるのに時間がかかる実態がある。 (カ) 手を使って食べるなど、食材に応じた食べ方ができない。	(エ) 国語科の書写の指導を中心に「正しい持ち方で整えて書く」ことの徹底を図る。 (オ) 体力向上（体幹の強化等）の観点も踏まえながら、授業中の姿勢保持の定着を図る。 イ 食事のルール・マナー等について (ア) 「食器を持って食べる」ことについては、家庭への共通理解・共通実践を推進する。 (イ) 形状・盛り付けの量（重さ）に応じた適切な扱い方や食材に応じた食べ方について、丁寧な指導を心掛ける。 (ウ) 喫食時の姿勢が悪い子、喫食に時間がかかる子、少食・偏食の子などについては、家庭との緊密な連携のもと、粘り強く指導にあたり、改善に努める。 (エ) 「食に関する指導（食育）」をバランスよく行うことで、ルールやマナーだけではなく「食に対する前向きさ」を育む。
ウ 児童・保護者の状況について (ア) 親子分離ができていない子がいる。 (イ) 不安感から泣いてしまう子がいる。 (ウ) 共通理解・共通実践を図るのが難しい。	ウ 児童・保護者の状況について (ア) 「児童・保護者の不安解消」を幼保小の取組の重要な目的と位置づけ、入門における情報提供や個別の対応を丁寧に行う。 (イ) 就学前施設が5歳児保護者を対象に行う保護者会・説明会等や学校の入学説明会において、不安解消につながる情報提供を確実に（「物」だけでなく「心」の準備についての情報提供に努める）。

Ⅳ 接続期教育研修 実績内容

1 目的

就学前教育・保育施設と小学校の連携や、子どもたちの円滑な接続を図るために必要な知見を含め、園・校において必要な指導・支援の力を高める。

2 第1回研修の内容

(1) テーマ

「幼保小の架け橋プログラムの目的とその展開」
ー育ちや学びをつなぐ「架け橋期のカリキュラム」作成を目指してー

(2) 講師

國學院大學 名誉教授／大阪総合保育大学 特任教授 神長 美津子氏

(3) 内容

ア 「架け橋期の教育の充実」とは

- ① 学校教育において育成する資質・能力と幼児教育について
- ② 「幼保小における架け橋期プログラム」のねらい
- ③ 「架け橋期の教育」において、大切にしたいこと

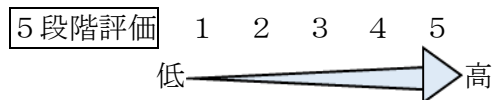
イ 「架け橋期の教育」の充実のために

- ① 「主体的・対話的で深い学び」の視点から、保育・教育を改善
- ② 遊びの学びのプロセスを捉え、「深い学び」となっていく背景を理解し幼保小で共有していく

ウ 育ちや学びをつなぐ「架け橋期のカリキュラム」を目指して

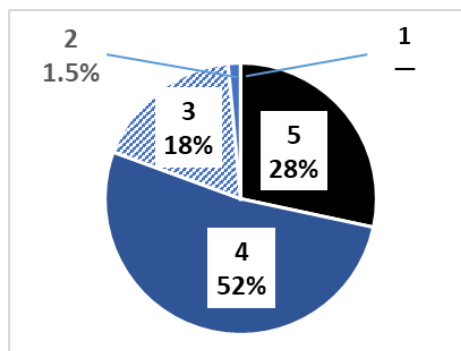
- ① 架け橋期カリキュラムのイメージ
- ② 「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」（10の姿）をフルに活用
⇒「資質・能力が芽生え、その芽生えをさらに伸ばす」ことを目指す

(4) 受講者評価

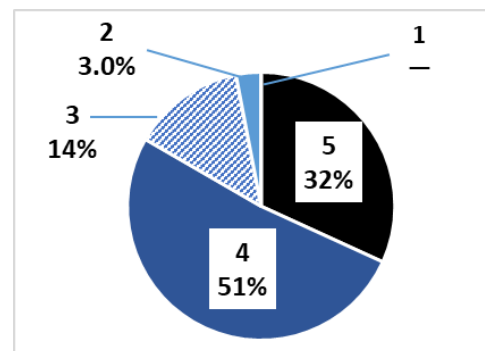


ア 小学校関係者全体の評価

【研修の内容をよく理解できた】

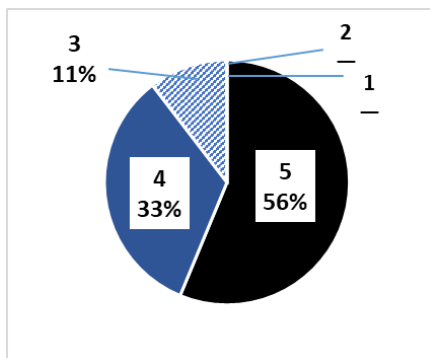


【指導や連携活動に活用できるものであった】

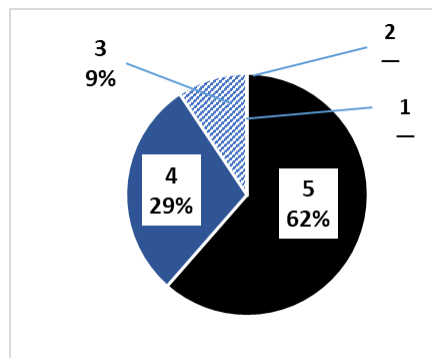


イ 幼児教育関係者全体の評価

【研修の内容をよく理解できた】



【指導や連携活動に活用できるものであった】



3 第2回研修の内容

(1) テーマ

「学びの芽生え・言葉による伝えあい」

(2) 実践事例発表

ア 「言葉による伝え合いを通して深まる遊び」

(ア) 事例

【色水遊び】【ステージショーごっこ】

(イ) 発表者

足立区立東綾瀬保育園 東風谷 和希 先生、南 祐衣奈 先生

イ 「学びの芽生え・言葉による伝えあい」

(ア) 事例

【お店屋さんごっこ】

(イ) 発表者

私立伊興すみれ保育園 上野 瑞樹 先生

ウ 「令和5年度第2回幼保小連携研修（接続期研修）」について

(ア) 事例

【自ら思いやりや願いをもち、学び合う子の育成】生活科総合部研修主題

(イ) 発表者

足立区立東加平小学校 大久保 彩子 先生

(3) 講評

ア 講師

教育指導課 学校経営補佐員 加藤 敦彦 先生（前 千寿常東小学校長）

イ 内容

(ア) 幼保小連携の背景について

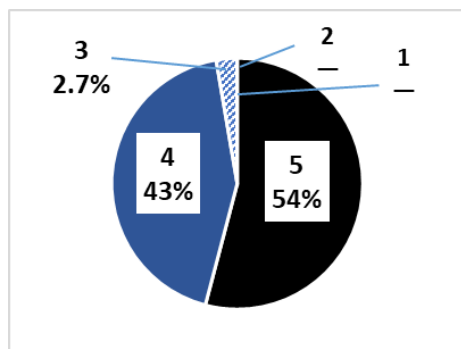
(イ) 今後の対応への期待

- ① 幼児教育と小学校教育の違い
- ② 幼保小の架け橋プログラムの作成
- ③ 愛着の形成、乳幼児期に重視すべき課題

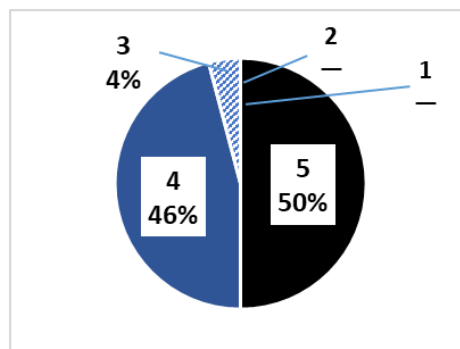
(4) 受講者評価

ア 小学校関係者全体の評価

【研修の内容をよく理解できた】

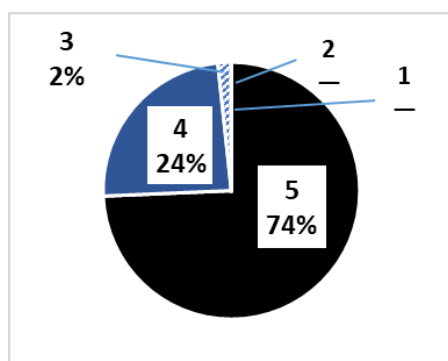


【指導や連携活動に活用できるものであった】

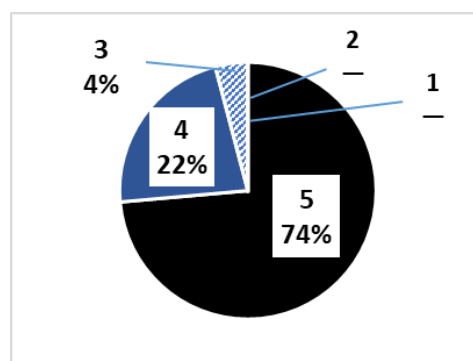


イ 幼児教育関係者全体の評価

【研修の内容をよく理解できた】



【指導や連携活動に活用できるものであった】





幼保小連携活動報告

令和6年9月発行

発 行 足立区教育委員会

編 集 足立区教育委員会 子ども家庭部 子ども施設指導・支援課

東京都足立区中央本町1-17-1

電話03-3880-5431